

昭和42年度

地力保全基本調査成績

〔十勝東部地域 本別町〕

北海道立中央農業試験場

(133)

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和42年度に行なつた9地域12市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和43年3月

北海道立中央農業試験場

三 島 京 治

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壌統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壌第3課）による。

土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	長谷部	俊雄
土壌改良科	科長	後藤	計二
”	第1係長	小林	荘司
”	研究職員	高尾	欽彌
”	”	菊地	晃二
”	”	水元	秀彰
”	”	伊東	輝行
”	”	坂本	宣崇
”	”	小林	茂

主に化学分析を担当した職員

研究職員	宮脇	忠
”	木村	清
”	松原	一実
”	上坂	晶司

1. 調査地域一覽

調査地域名	該当郡市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
十勝東部	中川郡本別町	108	9,972	—	270	108	9,702
十勝中部	広尾郡忠類町	—	3,688	—	—	—	3,688
佐呂間湖畔	常呂郡常呂町	55	4,335	—	1,223	55	3,112
	常呂郡佐呂間町	808	5,756	808	2,147	—	3,609
北見	常呂郡留辺蘂町	467	3,605	—	—	467	3,605
芦別	深川町	7,377	2,530	2,352	—	5,025	2,530
	空知郡江部乙町	2,380	1,091	175	240	1,590	851
上川北部	名寄市	1,590	4,163	—	2,465	866	1,698
洞爺湖畔	有珠郡伊達町	866	4,873	—	—	260	4,873
	有珠郡壮瞥町	260	1,655	—	—	417	1,655
日高沿岸	勇払郡鷲川町	2,557	768	2,140	—	925	768
日高北部内陸	勇払郡穂別町	1,127	1,007	202	—	—	1,007
空知北部	雨竜郡妹背牛町	3,249	215	—	—	—	—
合計		20,844	43,658	5,677	6,345	11,918	37,098

十勝東部地域 本別町

地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 北海道 中川郡本別町

(2) 調査面積 (ha)

郡市町村名	農地面積			既調査面積 普通畑 (ha)	調査対象面積		
	普通畑	水田	計		普通畑	水田	計
中川郡本別町	9,972	108	10,080	270	9,702	108	9,810

2) 気象

内陸性気候を呈し、夏季の気温は稍々高いが、気温較差が大きく、冬季の乾燥極値が著しい特徴がある。気温は9月下旬から急に下がる。年平均気温は6.9℃である。降水量は662.8mmで10月以降は少ない。北西の季節風により秋晴れの日が続くが、同時に気温が低下し、一般に初霜が早い。

冬季は低温が著しく、かつ積雪量が少ないために土壌が深くまで凍結し、春季の融雪、融雪時には、水蝕が発生する。また5月～6月にかけては季節風による土壌の飛散が甚しく、農作業の播種期、発芽期には多大の被害を与えている。

最寄りの本別測候所の観測成績は次の通りである。

項目		月別								
		4	5	6	7	8	9	10	11	
気 温 (℃)	平均	6.0	11.3	15.5	20.1	21.7	16.6	9.6	2.1	
	最高平均	12.9	18.7	21.6	25.5	27.0	22.2	16.0	8.5	
	最低平均	-1.0	3.8	9.3	14.6	16.3	10.9	3.1	-4.3	
降 水 量 (mm)		43	59	61	87	107	120	82	52	
日最大降水量 (mm)		40	42	49	41	47	116	49	36	

3) 土地条件

(1) 地 形

地区の東部及び南部は起伏のけわしい標高200m内外の丘陵におおわれ、西部および北部は標高50m～300mの段丘地を形成している。丘段は2段から4段の階段状で平坦かもしくは緩傾斜を呈する。

利別川と美里別川の低地は沖積地となつている。丘陵や段丘に接する所は扇状地を形成している。

(2) 地 質

各河川の流域は河川的作用による沖積地が分布し、台地につづく低湿地や台地の凹地には泥炭が形成されている。段丘上の表層は新しい雌阿寒岳の火山灰に覆われている。その下部は洪積世の堆積物からなつている。

(3) 侵蝕状況

5月、6月頃一般に乾燥し、季節風によつて、表土の軽しようなこととあいまつて、風蝕が発生し、著しく被害をうけている。そのために防風林の設置により、その被害の軽減が計られているがまだ十分

ではない。また春先きの融雪、融凍時には傾斜地は勿論わずかな緩傾斜においても水蝕が発生している。

(4) 交 通

道々が完備され、これより町道、農道が通じているので一部分を除けば交通は不便ではない。しかしまだ大部分が砂利敷が不完全のために春先きの融凍時には不通となつている。

4) 土地利用及び営農状況

a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
10.2	2.3	9.9	0.04	0.1

b) 作付面積(1戸平均ha)

作物	馬鈴薯	大豆	小豆	菜豆	ビート	牧草	そん麦
面積	1.4	1.8	1.2	2.3	1.2	3.1	0.5

c) 耕種肥培慣行及び収量(Kg/a)

作物	主な品種	元 肥				追 肥			収量
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
馬鈴薯	農 1	8	20	3	1,000				2,300
大豆	カリカチ	25	20	2.5	1,000				176
小豆	室	4	20	3	1,000				168
菜豆	大正金時	8	20	3	5,000				156
ビート	KW Eポリラーベ	12	26	10	5,000	2			3,210
牧草	赤ローパーチモシー	3	10	7	-				3,500
えん麦	ビクトリー	5	15	24	1,000				180
デントコン	ジャイアンツ	8	20	4	3,000				4,800

d) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳 牛		豚	綿 羊	鶏
		成 牛	育成牛			
飼 育 戸 数	850	610	610	5.8	5	950
飼 育 頭 数	2,101	2,700	1,931	474	5	19,500
1戸当平均飼育頭数	2.5	4.4	3.2	8.2	1	20.6

e) 農機具及び施設(戸の総数)

種 類	数 量	種 類	数 量
トラクター(私有)	小 23 大 119	テ ー ラ ー	24
“(共有)	26	小 型 四 輪 車	147
耕 耘 機	80	乗 用 車	45
動 力 噴 霧 機	46	堆 肥 場	252
ポテトハーベスター	16	尿 撒 布 機	62
ビートハーベスター	4	サ イ ロ	391
バ イ ン ダ ー	3		
ベ ー ラ ー	3		

f) 労働の関係(1戸当人数)

家 族 人 数	労 力 換 算	季 節 雇	臨 時 雇
4.8	2.5	0	9.5

当町は十勝管内の東部に位置し、豆類を主体とする穀菽経営が営まれている。一般に耕地面積が広く北海道畑作の代表的地帯である。戦後、乳牛の導入が推進され、穀菽単作経営から乳牛を加味した混同経営あるいは主畜経営に転換する農家が増加しつつある。

2. 土壌類型区分及び説明

1) 土壌系統及び土壌区一覽

(1) 土壌統一覽(その1)

土壌統名	色 層 序	腐 植 層 序	礫 砂 礫 層 礫 を 混 在 する 砂 層	酸 化 沈 種 物	土 性		母材堆積様式 非内結水成岩 (風積)
					表土	次層	
下 押 帯	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	壤 質	壤 質	非内結水成岩 (風積)
負 籠	“	表層腐植層	“	“	“	“	“
美 里 別	“	全層多腐植層	あり	“	粘 質	“	“
負 籠 西	“	“	なし	“	“	“	“
清 里	“	表層多腐植層	“	“	壤 質	“	“
嫌 侶	“	“	“	“	“	“	“
活 込 西	“	“	“	“	“	“	“
拓 農 西	“	“	“	あり	粘 質	強粘質	“
本 別	“	全層多腐植層	“	なし	壤 質	壤 質	“
川 東	“	“	“	“	強粘質	粘 質	“
押 帯	“	“	“	“	粘 質	壤 質	(風積) (風積)
仙 美 里	YR/Y	表層多腐植層	“	あり	“	“	“
月 見 台	“	“	“	“	壤 質	強粘質	“
美 里 別 西	YR/YR	“	“	“	粘 質	壤 質	“
下 美 里 別	YR/Y	“	“	“	“	“	“
上 美 里 別	YR/YR	表層腐植層	“	なし	壤 質	砂 質	“
拓 農	“	表層多腐植層	“	あり	粘 質	壤 質	“

(1) 土壤統一覧(その2)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層礫を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材堆積様式
					表土	次層	
美蘭別	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	壤質	壤質	非固結水成岩(風積)
フラシナイ	"	"	なし	"	強粘質	強粘質	非固結水成岩(風積) 厚大堆土
活込	"	表層多腐植層	"	あり	壤質	壤質	" "
勇足東	"	"	"	なし	粘質	粘質	" "
勇足中央	"	"	"	あり		"	" "
美里別高東	"	"	あり	なし	壤質	強粘質	" "
勇足	"	表層腐植層なし	なし	"		粘質	非固結水成岩(沖積)
チエトイ	"	"	"	"	砂質	壤質	" "
勇足西	"	"	"	"	粘質	砂質	" "
本別沢	"	"	あり	"	壤質	壤質	" "
嫌侶中央	"	全層多腐植層	なし	"	粘質	—	非固結火成岩(風積) 玉、ヤチン(堆積)

(2) 土壤区一覧(その1)

土壤区名	簡略分級式	畑面積(ha)	備考
帯一押帯	Ⅲ(w)e f	190	
負簾一負簾	Ⅱ(w)e f	540	
美里別一美里別	Ⅱpwfne	392	
負西一負西	Ⅱfase	250	
清里一清里	Ⅱfase	259	
嫌侶一嫌侶	Ⅱpe	151	
活込西一活込西	Ⅲs wfnae	36	
拓農西一拓農西	Ⅱpwfe	64	
本別一本別	Ⅱwne	306	
川東一川東	Ⅱpwn	123	
押帯一押帯	Ⅲw pfne	1460	
仙美里一仙美里	Ⅲdw tpfae	936	
月見台一月見台	Ⅲw dfase	890	
美里別西一美里別西	Ⅲw pfnae	385	
下美里別一下美里別	Ⅲw pfnae	88	
上美里別一上美里別	Ⅱtp(w)fnase	280	
拓農一拓農	Ⅲw pfae	330	

(2) 土壤区一覧(その2)

土 壤 区 名	簡略分級式	畑面積 (ha)	備 考
美 蘭 別-美 蘭 別	se dwfnia	388	
フ ラ シ ナ イ-フ ラ シ ナ イ	pwfnase	370	
活 込-活 込	we pfas	75	
勇 足 東-勇 足 東	pwa:se	246	
勇 足 中 央-勇 足 中 央	w pfnae	380	
美 和 別 高 東-美 里 別 高 東	e dpwnia::	130	
勇 足-勇 足	fae	240	
チ エ ト イ-チ エ ト イ	(w)fae	660	
勇 足 西-勇 足 西	pa	144	
本 別 沢-本 別 沢	ae tdgp(w)fi	447	
嫌 侶 中 央-嫌 侶 中 央	wfa pne	50	

下 押 帯 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm, 腐植含量12.2%, 土性はLである。色はYRで明度2, 彩度2である。礫なく, 発達弱度の細粒状構造あり, 孔隙なし, ち密度1.5で疎, pH(H₂O)6.3, 下層との境界は判然である。

第2層は厚さ9cm内外, 腐植含量10.7%, 土性はLである。色は10YRで明度3, 彩度3である。礫なく, 発達弱度の粒状構造あり, 細孔あり, ち密度1.8で中, pH(H₂O)6.0, 下層との境界は判然である。

第3層は厚さ18cm内外, 腐植欠く, 土性はSLである。色は7.5YRで明度5, 彩度6である。礫なく, 発達弱度の塊状構造あり, 細孔含む, ち密度1.4で疎, pH(H₂O)6.4, 下層との境界は判然である。

第4層は42cm以下で腐植欠く, 土性はLHCである。色は10YRで明度6, 彩度4である。円礫あり, 発達中度の塊状構造あり, 細小, 中孔あり, ち密度1.7で疎, pH(H₂O)6.4である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 中川郡本別町押帯 試坑 No. 172

第1層	0~15cm	腐植富む, 黒褐(10YR2/2)のL, 礫なく, 弱度の粒状構造あり, 孔隙なし, ち密度1.3で疎, pH(H ₂ O)6.3, 調査時の湿り半乾, 層界判然
第2層	15~24cm	腐植富む, 暗褐(10YR3/3)のL, 礫なく, 弱度の粒状構造あり, 細孔あり, ち密度1.8で中, pH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り半乾, 層界判然

第3層	24~42cm	腐植欠く，明褐(7.5YR5/6)のSL，礫なく，弱度の塊状構造あり，細孔含む，ち密度1.4で疎，pH(H ₂ O)6.4，調査時の湿り半乾，層界判然
第4層	42cm~	腐植欠く，灰黄褐(10YR6/4)のLiC，円礫あり，発達中度の塊状構造，細，小，中孔あり，ち密度1.7で疎，調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容 積重g	真比重	全炭 素%	全窒 素%	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	5.9		4.2	50.7	37.5	7.6	L	788	2.45	7.08	0.44	15	12.2
2	15~24	10.7		6.7	50.0	31.9	11.4	L	689					
3	24~42	8.7		10.8	58.6	25.2	5.4	SL			6.21	0.37	16	10.7
4	42~	8.2		9.2	36.0	28.4	26.4	LiC						

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	燐酸吸 収係数	有効 態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.3	0.3	34.2	17.9	1.1	0.7	55.8	1.847	83.3
2	6.0	5.2	0.3	39.7	11.0	0.9	0.7	31.0	2.527	1.3
3	6.4	5.3	0.3	12.6	4.5	0.3	0.2	38.7	2.171	1.8
4	5.9	4.5	1.8	18.1	4.2	2.7	0.3	25.4	1.360	3.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては押帯統があるが腐植層序，地下水位の高低が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦~緩傾斜

C 気候 年平均気温6.9℃，年降水量662.8mm

D 植生及び利用状況 殆んど耕地化され，大豆，菜豆，ビートが栽培されている。

E 農業上の留意事項

表土が軽しうで風蝕のおそれがあるので防風林の完備は絶体必要である。作土，心土共にりん酸の吸収力が高いので，土壌改良資材として多施用の必要がある。地力が減退し易いから堆肥，塩基の補給も忘れてはならない。

F 分布 北海道中川郡本別町押帯，活込

調査及び記載責任者 菊地晃二（北海道立中央農試）
月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
下押帯 - 下押帯	III(w)ellf

(2) 土壌区別説明

下押帯統 - 下押帯区

示性分級式（畑）

土表有表耕	表表表	土透保湿	白保固土	養置	有微酸	障有物	災增地	傾自傾人	侵耐
壤効土	土土土	土土土	地然	層分換	" "	効害理	冠す	斜為	水風
産土の	ののの	の風	の性	態量	物的	害の	水べり	然為	水風
力の層	ののの	乾の水	水潤肥	定塩の	石苦加	磷害質	害の	の傾	蝕蝕
可能厚	の礫粘	土の乾	沃	基灰土	里酸要	の害	危危	傾傾	蝕蝕
性厚深	含難土	着硬	沃	状豊	含	有	險險	方	蝕蝕
等級	ささ量易	性性さ	性性度	力力態	量" "	素度無	性性度	度度斜	度性性
		湿	度	否		性	性	斜	蝕
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
	Ⅲ 1 1 1 1 1 1 1	Ⅲ 1 2 3	Ⅲ 1 3 2	1 1 1 1 2 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 - -	Ⅲ 2 1 3
簡略分級式	Ⅲ(w)e Ⅱf								

A 土壤区の特徴

この土壤区は下押帯統に属する。表土の厚さ2.5cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、碎土は容易である。地下水位が低く過干のおそれがある。保肥力大、固定力大、土層の塩基状態中で自然肥沃度は中庸である。土層塩多、燐酸も多く、酸度弱く、養分は良好である。作土が軽しようで風蝕のおそれは大きい。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、菜豆、ビート、馬鈴薯らが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

表土が軽しようであるから防風林の設置、保全耕作が必要である。作土、心土共にりん酸の吸収力が大きいから土壤改良資材としてのりん酸の投入が必要であると思われる。また、作土、心土共に火山灰性土壌のため地力が減退しやすいから堆肥、塩基の補給は忘れてはならない。

D 分布 北海道中川郡本別町押帯、活込

記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農試）

月 日 昭和43年3月31日

負 簞 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ2.2cm内外、腐植含量9.3%、土性はLである。色は1.0YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H₂O)6.3、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ1.0cm内外、腐植含量5.4%、土性はSLである。色は7.5YRで明度4、彩度3である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、ち密度1.8で中、pH(H₂O)5.9下層との境界は判然である。

第3層は厚さ1.5cm内外、腐植を欠く、土性はSLである。色は7.5YRで明度5、彩度4である。

礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)6.0、下層との境界は漸変する。

第4層は4.5cm以下で腐植欠く、土性はsLである。色は7.5YRで明度5、彩度4である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.8で中、pH(H₂O)6.2である。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡本別町負簾試坑 図 136

第1層	0~20cm	腐植含む、黒褐(10YR2/2)のL、礫なく、弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り半乾層界明瞭
第2層	20~22cm	腐植欠く、明黄褐(10YR6/6)のsL、礫なく、単粒構造、孔隙なし、ち密度1.2で疎、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第3層	22~30cm	腐植含む、褐(7.5YR4/3)のsL、礫なく、発達構造の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界判然
第4層	30~45cm	腐植欠く、灰褐(7.5YR5/4)のsL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、層界漸変
第5層	45cm~	腐植欠く、明褐(7.5YR5/8)のsL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積量 g	真比重	全炭 素%	全窒 素%	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	4.5		3.8	49.0	37.9	9.3	L			53.4	0.42	1.2	9.2
2	22~30	7.9		6.4	62.1	26.2	5.3	sL			31.4	0.29	1.0	5.4
3	30~45	8.6		6.6	65.4	23.8	4.3	sL						
4	45~	7.9		6.6	62.9	25.1	5.4	sL						

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	H ₂ O			
1	6.3	5.4	0	2.47	17.8	1.2	0.5	75.5	1.173	1.21
2	5.9	5.1	0.3	20.9	8.2	0.7	0.1	42.9	2.253	1.7
3	6.0	5.2	0.3	19.5	5.8	0.9	0.1	32.4	2.228	1.3
4	6.2	5.3	0.3	9.9	4.5	1.1	0.2	49.0	2.019	1.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、仙美里統、負簾西統、チエトイ統、本別統らがあるが、チエトイ統とは母材、堆積様式が異なり、負簾西統、本別統とは地下水位の高低が異なり、仙美里統とは有効土層の浅深が異なるので本統と区分される。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風 積

土層の塩基の状態良好で自然肥沃度は中庸である。風蝕のおそれが多い。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、菜豆、小豆、ビート、馬鈴薯が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

乾燥地火山灰土のため、土壌は軽るく、かそ性も弱く、風蝕の害が大きいのでその防止対策が必要である。また、地力が減耗しやすいので塩基の補給、有機物の施用を忘れてはならない。

D 分布 北海道中川郡本別町負簾の一部、勇足

記載責任者 菊地晃二（北海道立中央農試）

月 日 昭和43年3月31日

美 里 別 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量10.4%、土性はCLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)6.1下層との境界は判然である。

第2層は厚さ6cm内外、腐植含量9.8%、土性はCLである。色は10YRで明度2、彩度1である。礫なく、発達弱の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で中、pH(H₂O)6.0、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外、腐植含量7.2%、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく発達弱度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ10cm内外、腐植含量は7.9%、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱～中の細塊状構造あり、細孔に富む小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.8下層との境界は判然である。

第5層は25cm内外、腐植欠く、土性はCLである。色は10YRで明度6、彩度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細、小、中孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)5.9、下層との境界は判然である。

第6層、腐植を欠き、母礫層からなつてゐる。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡本別町美里別高東 試坑 691

第1層	0~20cm	腐植に富む、黒褐(10YR2/2)のCL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	20~26cm	腐植含む、黒褐(10YR1/1)のCL、礫なく、弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、層界判然。
第3層	26~46cm	腐植含む、暗褐(10YR3/4)のL、礫なく、弱度の粒状構造あり細、小孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、層界明瞭。

第4層	46~56cm	腐植含む、黒褐(10YR2/2)のL、礫なく、弱~中度の塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾、層界判然。
第5層	56~80cm	腐植欠き、明黄褐(10YR6/6)のCL、礫なく、弱度の塊状構造あり、細、小、中孔あり、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界不規則漸変。
第6層	80cm~	円礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.7		4.4	50.4	25.6	19.6	CL	102.0		6.03	0.44	13	10.4
2	20~26	9.5		2.9	42.0	36.3	18.8	CL	91.0	2.06	5.68	0.37	15	9.8
3	26~46	7.9		5.5	44.6	41.7	8.2	L			4.18	0.38	11	7.2
4	46~56	8.2		5.7	52.5	39.9	1.9	L			4.58	0.33	13	7.9
5	56~80	5.7		8.6	32.0	40.8	18.6	CL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.0	0.3	30.2	18.1	0.8	0.3	62.0	1,221	16.4
2	6.0	5.0	0.3	30.7	16.8	1.2	0.1	60.3	1,775	6.2
3	5.8	4.6	0.0	29.6	9.3	1.7	0.1	32.0	2,019	1.7
4	5.8	4.6	0.0	35.0	10.6	1.8	0.2	33.1	2,171	tr
5	5.9	4.5	0.6	20.1	9.3	3.7	0.7	49.1	1,241	2.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、仙美里統、拓農統、チエトイ統らがあるが、チエトイ統とは母材、堆積様式が異なり、仙美里統、拓農統とは地下水位の高低、有効土層の浅深らが異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃、年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化されている。主にビート、馬鈴薯、菜豆らが作付られている。

E 農業上の留意事項

堆厩肥の施用、防風林の設置、燐酸肥料の多施、深耕。

F 分布 北海道中川郡本別町美里別の一部、拓農の一部

調査及び記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農試)

月 日 昭和43年3月31日

負 簾 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量14.8%、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の細粒構造あり、細孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ5cm内外、腐植欠く、土性はLである。色は10YRで明度6、彩度6である。礫なく板状構造、細孔あり、ち密度1.8で中、pH(H₂O)5.8、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ10cm内外、腐植含量18.8%、土性はLiCである。色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく、発達中程度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)5.5、下層との境界は判然である。

第4層は、厚さ20cm内外、腐植含量8.4%、土性はSLである。色は10YRで明度2、彩度3である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔含む。ち密度1.8で中、pH(H₂O)5.5、下層との境界は漸変する。

第5層は55cm以下で、腐植欠く、土質はSLである。色は10YRで明度6、彩度4である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H₂O)5.5。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡木別町勇足 試坑 No. 140

第1層	0~20cm	腐植富む、黒褐(10YR2/2)のCL、礫なく、弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第2層	20~26cm	腐植欠く、明黄褐(10YR6/6)のL、礫なく、弱度の板状構造、細孔あり、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第3層	26~35cm	腐植富む、黒褐(10YR1/1)のLiC、礫なく、中程度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、層界判然。
第4層	35~55cm	腐植含む、黒褐(10YR2/3)のSL、礫なく、弱度の塊状構造あり、細孔含む、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、層界漸変。
第5層	55cm~	腐植欠く、黒褐(10YR4/6)のSL、礫なあり、弱度の塊状構造あり、細、小孔あり、斑鉄あり、ち密度1.7で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	6.1		3.9	45.4	22.9	20.8	CL	76.7	2.20	8.58	0.58	1.4	14.8
2	20~25	5.3		3.5	52.8	37.5	6.2	L	54.6	2.46	4.58	0.53	1.3	7.9
3	25~35	8.7		14.4	28.5	25.3	31.8	LiC	64.3		10.90	0.64	1.6	18.8
4	35~55	7.2		14.8	54.0	22.8	8.4	SL			4.87	0.58	1.2	8.4
5	55~	3.6		19.2	48.9	14.7	14.7	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	K ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.9	0.3	38.0	19.8	1.4	0.2	55.5	1,659	6.4
2	5.8	4.8	0.3	22.8	5.7	0.8	0.5	26.4	1,592	1.7
3	5.5	4.2	5.0	62.0	14.2	2.1	0.1	25.1	1,269	1.3
4	5.5	4.4		36.4	6.9	1.2	0.1	53.3	2,140	1.7
5	5.7	4.6	1.8	13.5	4.8	1.7	0.3	37.3	960	1.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、仙美里統、負簾統があるが、仙美里統とは下層の母材と腐植層序が異なり、負簾統とは腐植層序が異なるので本統と区分した。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9°C, 年降水量 662.8 mm

D 植生及び利用状況

耕地化され、菜豆、ビート、馬鈴薯から作付けられている。

E 農業上の留意事項

堆肥施用、塩基の補給、防風林設置、磷酸肥料の多施用。

F 分布 北海道中川郡本別町勇足

調査及び記載責任者 菊地晃二（北海道中央農試）

月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
負簾西-負簾西	ii t p w f n e

② 土壌区別説明

負簾西統 - 負簾西区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	表表表	土透保	自保	養置	有微酸	障有物	災增地	傾自傾人	侵耐耐
壤効土	土土土	地然	層分換	の性	態量	害理冠	す水べり	斜為	水風
生土	土土土	の風	の性	態量	害理冠	す水べり	斜為	水風	耐耐
産土	ののの	乾の水	潤肥肥	定塩の	石苦加	磷害質	的害の	の傾	傾
力	ののの	の乾	沃	状豊	含	害質	的害の	の傾	傾
可	礫	粘土	沃	状豊	含	害質	的害の	の傾	傾
能	厚	土の	沃	状豊	含	害質	的害の	の傾	傾
性	深	難着	沃	状豊	含	害質	的害の	の傾	傾
等	級	性性	性性	力力	態量	素度	無性	度度	斜向斜
級	さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	傾
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	Ⅲ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅱ 2 2 2 Ⅱ 1 2 2 Ⅱ 1 3 2 Ⅱ 1 1 2 2 2 1 Ⅰ 1 1 Ⅰ 1 1 Ⅰ 1 Ⅱ 2 1 2								
簡略分級式		Ⅱ t p w f n e							

A 土壤区の特徴

この土壤区は負簾西統に属する。表土の厚さは20cm内外でやや深い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、砕土にわずかに抵抗がある。地下水位が過湿、過干のおそれは少ない。保肥力大、固定力大、土層の塩基状態が中で、自然肥沃度は中庸である。石灰、苦土多、加里、磷酸中、酸度弱で養分は中庸である。風蚀のおそれがわずかである。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され菜豆、ビート、馬鈴薯らが主に栽培されている。

C 地力保全上の問題点

適湿なる火山灰土で大なる問題点はない。しかし火山灰土のため地力が減耗しやすいから堆肥の施用を忘れてはならない。防風林の設置、磷酸肥料の施用も必要である。

D 分 布 北海道中川郡本別町勇足

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道中央農試)

月 日 昭和43年3月31日

清 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さは20cm内外、腐植含量11.1%、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.0ですこぶる疎、pH(H₂O)6.0下層との境界は判然である。

第2層は厚さ8cm内外、腐植含量5.2、土性はSLである。色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、小孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H₂O)5.4、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ13cm内外、腐植あり、土性はSLである。色は10YRで明度3、彩度4である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H₂O)5.4、下層との境界は

漸変する。

第4層は厚さ17cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は10YRで明度6、彩度8である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は漸変する。

第5層は58cm以下で、腐植欠く、色は10YRで明度6、彩度6である。細、小円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細、小、中孔あり。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡本別町清里 試坑 No. 14

第1層	0~20cm	腐植富む、黒褐(10YR2/2)のL、礫なく、弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.0ですこぶる疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	20~28cm	腐植含む、黒(10YR1/1)のSL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、小孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿層界判然。
第3層	28~41cm	腐植あり、暗褐(10YR3/4)のSL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、層界漸変。
第4層	41~58cm	腐植欠く、明黄褐(10YR8/6)のSL、礫なく、弱度の塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、層界漸変。
第5層	58cm~	腐植欠く、明黄褐(10YR6/6)のSL、小円礫あり、弱度の塊状構造あり、細、小、中孔あり、ち密度1.7で疎、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容 積重g	真比重	全炭 素%	全窒 素%	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.4		5.7	45.6	37.4	11.3	L	81.5	2.13	6.44	0.39	1.6	11.1
2	20~41	3.4		23.9	51.7	22.6	1.8	SL	75.5	2.13	3.02	0.21	1.4	5.2
3	41~58	3.1		30.0	54.7	12.9	2.4	SL						

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効 態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.1	0.3	29.6	18.7	1.7	0.3	66.2	1.274	13.4
2	5.4	4.4	2.5	19.0	4.5	1.2	0.2	24.7	1.519	1.7
3	5.7	4.6	0.9	10.6	3.2	1.1	0.1	30.7	1.350	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては仙美里統，美里別統があるが，仙美里統とは有効土層の浅深，下層土壌の堆積様式が異なり，美里別統とは腐植層厚が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され，馬鈴薯，ビート，デントコン，らを主に栽培している。

E 農業上の留意事項

等高線栽培，有機物施用，燐酸肥料の多施，防風林設置

F 分布

北海道中川郡本別町清里

調査及び記載責任者 菊地 晃二（北海道立中央農試）

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
清里 - 清里	II f a s e

(2) 土壌区別説明

清里統 - 清里区

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土表表	透保湿	自保固土	養置	障有微酸	障有物	災増地	傾自傾入	侵耐耐
境効土	表土	土	然	層分換	〃〃効	害理	冠す	斜	水風
生土	土	の風		の性	熊量	物的	水べ	斜	水風
産土	土	の粘		の性	熊量	害質	害の	の	蝕蝕
力	の	の	の	基	灰土里酸要	の	危危	方	
可	の	粘	水水潤肥肥定塩	石苦加磷	害質	害の	の	蝕蝕	
能	の	粘	基	灰土里酸要	の	害	危危	方	
性厚	含難	土着	乾	汰	状	豊	有	險險	
等	深	性性	性性	度度	力力	熊量	〃〃	素度	無性
級	さ	量易	湿	度	否	素度	無性	性	斜向斜
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
II	II II II II	II II II II	II II II II	II II II II	II II II II	II II II II	II II II II	II II II II	II II II II
簡略分級式	II f a s e								

A 土壌区の特徴

この土壌区は清里統に属する。表土の厚さは2.5cm以上，有効土層は1m以上で深い。表土の土性は

壤質で、耕起、砕土は容易である。地下水位は中位で過湿、過干のおそれは少い。保肥力大、固定力中、土層の塩基の状態中で自然肥沃度は良好である。石灰、苦土、燐酸多、加里中で養分は多い。3°～8°の傾斜を呈するので、わずかの地すべりの危険性がある。水蝕、風蝕のおそれがわずかにある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、主に馬鈴薯、ビート、デントコン、えん麦らが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

過湿な火山灰土壌である。そのために地力が低下し易いので堆肥の施用と塩基の補給が大切である。傾斜を呈するので等高線栽培などの保全耕作が大切である。また表土が軽しように風蝕のおそれがある。ので防風林の設置も忘れてはならない。

D 分 布

北海道中川郡本別町清里

記載責任者 菊 地 晃 二(北海道中央農試)

昭和43年3月31日

活 込 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、腐植含量1.07%、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は判然する。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量7.0%、土性はSLである。色は10YRで明度3、彩度4である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)6.0、下層との境界は判然する。

第3層は厚さ30cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は10YRで明度6、彩度8である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)6.2、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ20cm内外、腐植欠く、土性はSである。色は10YRで4、彩度3である。礫なく、単粒状構造あり、孔隙なし、ち密度8～10ですこぶる疎である。下層との境界は判然である。

第5層は83cm以下、腐植欠く、土性はLである。色は10YRで明度6、彩度6である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で中である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 中川郡本別町活込 試坑648

第1層	0～18cm	腐植富む黒褐(10YR 2/2)のL、礫なく、弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	18～28cm	腐植富む、暗褐(10YR 4/3)のSL、礫なく、弱度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り湿、層界判然。

第3層	28~63cm	腐植欠く明黄褐(10YR8/6)のSL, 礫なく, 弱度の塊状構造あり, 細, 小孔あり, ち密度15で疎, pH(H ₂ O)6.2, 調査時の湿り半乾, 層界判然。
第4層	63~83cm	腐植欠く, 灰黄褐(10YR3/4)のS, 礫なく, 単粒状構造, 孔隙なし, ち密度8ですこぶる疎, 調査時の湿り半乾, 層界判然。
第5層	83~100cm	腐植欠く, 明黄褐(10YR6/6)のL, 礫なく, 弱度の塊状構造あり, ち密度18で中, 調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容 積重	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	5.1		8.1	42.2	35.2	14.5	L	96.7	1.98	6.21	0.45	0.45	10.7
2	18~28	8.6		15.9	53.8	27.0	3.3	S L	87.8	1.98	4.06	0.31	0.31	7.0
3	28~63	6.2		19.1	57.1	22.6	1.2	S L						

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.6	0.9	25.8	9.0	1.1	0.1	36.9	1.451	3.8
2	6.0	4.8	0.6	12.1	4.9	1.5	0.1	44.5	2.309	1.8
3	6.1	5.0	0.3	16.4	3.3	1.7	0.1	15.6	1.934	1.3

A 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては活込統があるが地下水位の高低が異なるので本統と区分した。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

一部えん麦, デントコンも栽培されているが殆んど草地となっている。

E 農業上の留意事項

保全耕作, 有機物施用, 塩基補給, 磷酸肥料の多施用

F 分布

北海道中川郡本別町活込

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
活込西-活込西	III:IIwfnae

(2) 土壤区別説明

活 込 西 統 一 活 込 西 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵	耐											
壤	効	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐
生	土	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風			
産	土	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	障	の	の
力	可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	厚	含	難	土	着	硬	乾	沃	基	灰	土	里	酸	要	の	危	危	傾	傾	傾	傾	傾
性	等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	量	易	湿	度	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e												
Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
簡略分級式				Ⅲ s ll w f n a e																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は活込西統に属する。表土の厚さは2.5cm以上、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質で、耕起、砕土が容易である。地下水位が中位で、過湿、過干のおそれは少ない。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中で、自然肥沃度は中庸である。石灰多、苦土中、加里、燐酸少、酸度中で養分は中庸である。傾斜を呈し水蝕のおそれが多い。また表土が火山灰土で軽しよのため風蝕のおそれも多少ある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

一部えん麦、デントコンらが作付けられているが大部分は草地となつている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈し、侵蝕のおそれが大きいから等高線栽培保全耕作の必要がある。作土が火山灰土で地力が減耗しやすいから有機物の施用、塩基の補給は忘れてはならない。深耕時に土壤改良資材としての燐酸肥料の多投入も必要である。

D 分 布

北海道中川郡本別町活込

記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道中央農試)

昭和43年3月31日

嫌 侶 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.8 cm内外，腐植含量1.0.7%，土性はLである。色は1.0 YRで明度2，彩度1である。礫なく，発達度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.4で疎，pH(H₂O)6.3，下層との境界は判然である。

第2層は厚さ6 cm内外，腐植含量9.7%，土性はLである。色は1.0 YRで明度2，彩度1である。礫なく，板状構造あり，細孔あり，ち密度1.5で疎，pH(H₂O)6.2，下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ1.0 cm内外，腐植欠く，土性はLである。色は1.0 YRで明度5，彩度4である。礫なく，板状構造あり，孔隙なし，ち密度1.4で疎，pH(H₂O)6.1，下層との境界は判然である。

第4層は厚さ1.2 cm内外，腐植含量6.2%，土性はL，色は1.0 YRで明度2，彩度2である。小円礫あり，発達中度の粒状構造，細孔あり，ち密度1.6で疎，pH(H₂O)5.8，下層との境界は判然である。

第5層は厚さ1.2 cm内外，腐植含量8.7%内外，土性はS Lである。色は1.0 YRで明度3，彩度4小円礫あり，発達弱度の塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度1.6で疎，pH(H₂O)5.9，下層との境界は漸変する。

第6層は5.8 cm以下で腐植欠き，土性はS Lである。色は1.0 YRで明度6，彩度4である。小円礫あり，発達弱度の塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度1.7で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡木別町袖美里 試坑番194

第1層	0~1.8 cm	腐植に富む，黒(1.0 YR 1/2)のL，礫なく，弱度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.4で疎，pH(H ₂ O)6.3，調査時の湿り半乾，層界判然。
第2層	1.8~2.4 cm	腐植含む，黒(1.0 YR 1/2)のL，礫なく，板状構造，細孔あり，ち密度1.5で疎，pH(H ₂ O)6.2，調査時の湿り層界明瞭。
第3層	2.4~3.4 cm	腐植欠く，灰黄灰(1.0 YR 4/5)のL，礫なく板状構造，孔隙なし，ち密度1.4で疎，pH(H ₂ O)6.1，調査時の湿り半乾，層界明瞭。
第4層	3.4~4.6 cm	腐植含む，黒褐(1.0 YR 2/2)のL，小円礫あり，発達中度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.6で疎，pH(H ₂ O)6.2，調査時の湿り半乾，層界半然。
第5層	4.6~5.8 cm	腐植含む，暗褐(1.0 YR 4/3)のS L，小円礫あり，発達弱度の塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度1.6で疎，pH(H ₂ O)5.9，調査時の湿り半乾。
第6層	5.8 cm~	腐植欠く，灰黄(1.0 YR 4/6)のS L，小円礫あり，発達弱度の塊状構造あり，ち密度1.7で疎，調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	容積 重量%	粒徑組成%				土性	塊體容 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~1.8	9.1		1.0.4	4.2.4	3.2.8	1.4.4	L	8.4.9	2.5.6	6.2.1	0.3.8	1.6	1.0.7
2	1.8~2.4	4.2		1.2.9	3.9.1	3.3.4	1.4.6	L	8.5.1	2.5.2	5.6.3	0.3.5	1.5	9.7
3	2.4~3.4	3.2		1.1.2	5.3.0	3.3.5	2.3	L			—	—	—	—
4	3.4~4.6	6.8		1.5.4	4.2.6	3.3.7	8.3	L			3.6.0	0.2.4	1.4	6.2
5	4.6~5.8	5.5		2.0.4	4.6.6	2.6.7	6.3	S L			1.5.1	0.1.5	9	2.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.2	0.3	29.0	17.5	1.3	0.4	66.5	1.202	19.0
2	6.2	5.2	0.3	28.6	16.0	1.4	0.2	58.3	1.250	5.0
3	6.1	5.4	0.	7.2	2.4	1.1	0.1	34.0	1.069	2.5
4	5.8	4.8	0.6	25.6	8.4	2.4	0.2	35.2	1.979	1.3
5	5.9	4.7	1.8	19.2	5.7	2.4	0.4	31.1	1.640	1.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては勇足中央統、嫌侶中央統らがあるが勇足中央統とは腐植層序が嫌侶中央統とは下層の母材、堆積様式が異なるので本統と区分した。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気温 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、主にビート、馬鈴薯、菜豆らが作付けられる。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、塩基の補給、防風林の設置、深耕

F 分布

北海道中川郡本別町仙美里

調査及び記載責任者 菊地晃二（北海道中央農試）

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
嫌侶一嫌侶	llpe

② 土壌区別説明

嫌侶統一嫌侶区

示性分級式（畑）

土壌	表土	表土	耕土	表土	表土	透保	濕保	固保	土置	養置	有微	酸物	障有	災增	傾地	傾自	傾人	侵耐		
生土	効土	土	土	土	土	然	然	然	然	然	然	然	然	然	然	然	然	然	然	
産土	土	土	土	土	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
性	厚	含	難	土	着	便	乾	決	状	豊	含	有	害	危	危	傾	傾	傾		
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
級	さ	量	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	
	t	d	g	p		w		f		n		i	a	s		e				
						2	2	2		1	2	1		1	2	1		1	1	1
	簡略分級式					p e														

A 土壤区の特徴

この土壤は嫌侶統に属する。表土の厚さは25cm以上、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、砕土は容易である。地下水位が中位で過湿、過干のおそれは少ない。保肥力大、固定力中土層の塩基状態は中弱で自然肥沃度は良好である。石灰、苦土、加里、燐酸多、酸度弱で養分は多い。風蚀のおそれが多少ある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、主にビート、馬鈴薯、菜豆らが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

過湿の火山灰土壌である。大なる問題はないが火山灰土で地力が減耗し易いから、堆厩肥、塩基の補給が必要である。防風林の設置も忘れてはならない。

D 分布

記載責任者 菊地晃二（北海道立中央農試）

昭和43年3月31日

拓 農 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量12.0%、土性はCLである。色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度10ですこぶる疎、pH(H₂O)5.9、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ13cm内外、腐植含量3.3%、土性はLiCである。色は10YRで明度3、彩度3である。礫なく、発達中度の粒状構造あり、ち密度16で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外、腐植を欠く、土性はCLである。色は10YRで明度6、彩度6である。礫なく、発達弱度の細塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度17で疎、pH(H₂O)6.1である。

下層との境界は漸変する。

第4層は厚さ40cm内外，腐植欠く，色は10YRで明度6，彩度6である。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，細，小，中孔あり，ち密度15で疎，下層との境界は漸変する。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡本別町拓農 試坑No.33

第1層	0~20cm	腐植富む，黒(10YR1/1)のCL，礫なく，弱度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度10ですこぶる疎，pH(H ₂ O)5.9，調査時の湿り半乾，層界判然。
第2層	20~33cm	腐植あり，黒褐(10YR3/3)のLiC，礫なく，発達中~強度の細塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度16で疎，pH(H ₂ O)5.8，調査時の湿り湿，層界判然。
第3層	33~53cm	腐植欠く，明黄褐(10YR6/6)のCL，礫なく，発達弱度の細塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度17で疎，pH(H ₂ O)6.1，調査時の湿り湿，層界漸変。
第4層	53~90cm	腐植欠く，明黄褐(10YR6/6)礫なく，発達弱度の塊状構造あり，細，小，中孔あり，斑鉄あり，ち密度15で疎，調査時の湿り湿，層界漸変。
第5層	90cm	腐植欠く，明黄褐(10YR6/6)礫なく，発達弱度の塊状構造あり，孔けき，ち密度20~25中である。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位	水分 %	礫含量 %	粒徑組成%				土性	現地容積重	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	6.2		10.5	30.7	35.3	23.5	CL	74.5	2.06	6.96	0.65	10	12.0
2	20~33			23.0	21.7	29.0	26.3	LiC	103.6	2.32	1.91	0.21	9	3.3
3	33~53	4.0		22.6	23.4	34.6	19.3	CL						

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.9	0.3	39.0	21.1	2.2	0.4	57.6	1.406	11.9
2	5.8	4.8	0.3	21.7	9.5	2.9	0.2	43.7	1.146	tr
3	6.1	4.8	0.3	17.9	8.6	3.8	0.3	50.2	789	3.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては仙美里統，美里別統，勇足東統らがあるが，美里別統とは腐植層序が異なり，仙美里統，勇足東統とは地下水位の高低が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地 形 平坦

C 気 候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

一部荒れているが大部分は耕地化され、馬鈴薯、ビート、菜豆らを主に作付けしている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、塩基補給、深耕、防風林設置

F 分 布

北海道中川郡本別町拓農

調査及び記載責任者 菊 地 晃 二(北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
拓農西一拓農西	IIpwf e

(2) 土壤区別説明

拓農西統一拓農西区

示性分級式(畑)

土表有表耕	表表表	土透保湿	白保固土	養置	有微酸	障有物	災增地	傾自傾人	侵耐耐
壤効土	土耘土	土の地	然	層分換	" "効	害理	冠す	斜	水風
生土の	の風	の風	の性	の性	態量	物的	水り	然為	水風
力可の	層含	の粘土	乾の水水	潤肥定塩	の石苦加燐	害質	害のり	の	蝕
能の	量難	土着傾	乾	沃	基灰土里酸要	の	危危	傾方傾	蝕蝕
性厚深	性性	性性	性性	度力力	態量	" "素度	無性	度度	斜向斜
等	性性	性性	度力力	態量	" "素度	無性	度度	斜向斜	度性性
級	量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕	
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
II	I I I II	2 2 2 II	2 2 2 II	1 1 2 I	1 1 1 1 2 1	I I 1 1	I 1 1 I	1 1	II 2 2 2
簡略分級式	II p w f e								

A 土壤区の特徴

この土壤区は拓農西統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層も1m以上で深い。表土の土性は壤質で、耕起、砕土は容易である。地下水位はやゝ高く半湿を呈する。保肥力大、固定力大、土層の塩基状態中で自然肥沃度は中庸である。石灰、苦土、加里、燐酸多、酸度弱で養分は多い。風蝕のおそれが多少ある。

B 植生及び利用状況

一部荒地となつているが、大部分は耕地化され、馬鈴薯、ビート、菜豆らを栽培している。

C 地力保全上の問題点

半湿を呈する火山灰土壤である。大なる問題はないが火山灰土で地力が減耗し易いから堆肥、塩基の補給が必要である。防風林の設置、磷酸肥料の多施用も忘れてはならない。

D 分 布

北海道中川郡本別町拓農

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

本 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、腐植含量11.0%、土性はS i Lである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度12で疎、pH(H₂O)6.1、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ22cm内外腐植含量10.2%、土性はS i Cである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の細塊状構造、板状構造あり孔隙なし、ち密度18で中、pH(H₂O)6.2、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ5cm内外、腐植含量6.4%、土性はLである。色は10YRで明度3、彩度2である。礫なく、発達中度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度18で中、pH(H₂O)6.3、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ15cm内外、腐植欠く土性はLである。色は10YRで明度6、彩度4である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度17で疎、下層との境界は明瞭である。

第5層は厚さ13cm内外、腐植含量5.6%、土性はS Lである。色は7.5YRで明度3、彩度3である。礫なく発達弱度の粒状構造あり、細、小、中孔あり、ち密度14で疎、pH(H₂O)6.3、下層との境界は判然である。

第6層は70cm以下で腐植欠く、土性はO Lで色は7.5YRで明度5、彩度8である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 中川郡本別町川東 試坑No121

第1層	0~15cm	腐植含む、黒褐(10YR 2/2)のS i L、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度12で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	15~37cm	腐植含む、黒褐(10YR 2/2)のS i L、礫なく、発達弱度の塊状構造、板状構造、孔隙なし、ち密度18で中、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、層界判然。
第3層	37~42cm	腐植含む、黒褐(10YR 2/3)のL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度18で中、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り半乾、層界半然。

第4層	4.2~5.7cm	腐植欠く、灰黄褐(10YR4/6)のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第5層	5.7~7.0cm	腐植含む、暗褐(7.5YR)のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細、小、中孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り湿、層界判然。
第6層	7.0cm~	腐植欠く、明褐(7.5YR3/3)のCL、礫なく、発達の弱状構造あり、細孔あり、小円礫あり、ち密度1.5で疎、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫量 重量%	粒径組成%				土性	現地容 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~1.5	4.5		2.6	36.5	52.4	8.5	SiL	71.3	2.89	6.38	0.50	1.2	11.0
2	1.5~3.7	4.3		1.8	37.5	49.1	11.6	SiL	75.1	2.65	5.92	0.43	1.3	10.2
3	3.7~5.7	7.5		6.8	54.5	32.3	6.2	L			3.72	0.34	1.0	6.4
4	5.7~7.0	7.8		9.3	64.4	15.1	11.2	SL			3.25	0.31	1.0	5.6

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.1	0.3	29.8	18.8	1.2	0.4	6.61	1.145	9.6
2	6.2	5.3	0.3	30.2	22.0	1.1	0.1	7.59	1.195	5.4
3	6.3	5.2	0.3	28.5	13.9	1.9	0.1	5.29	1.971	3.5
4	6.3	5.2	0.3	27.8	12.0	1.7	0.2	4.70	2.207	1.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては負籠統、川東統、仙美里統らがあるが、川東統とは下層の母材、堆積様式が異なる。負籠統、仙美里統とは腐植層序が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、菜豆、馬鈴薯、ビートらが作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、塩基補給、防風林の設置、燐酸肥料の多施用

F 分布

北海道中川郡本別町川東

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
本別一本別	Ⅱwne

(2) 土壤区別説明

本	別	統
---	---	---

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	透保湿	自	養	置	有微酸	障	災	傾	侵	
壤	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	障	災	傾	侵	
生土	土	土	然	層分換	効	害理	冠す	斜	為	水風	
産土	土の	土の	の	の	性	態量	物的	水べ	然	斜	
力	の	の	乾	水水潤肥肥定塩	の	石苦加燐	害質	害の	の	の	
可	の	の	粘	基	灰土用酸要	の	危	危	傾	傾	
能	の	難	土着	乾	沃	状	豊	含	有	害	
性厚	含	難	土着	乾	沃	状	豊	含	有	害	
等	深	性	性	性	性	力	力	態	量	素	
級	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	斜	
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式	Ⅱwne										

A 土壤区の特徴

この土壤区は本別統に属する。表土の厚さは2.5cm以上で深い。有効土層も1m以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、砕土は容易である。地下水位は中位で過湿、過干のおそれは少ない。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は良好である。石灰、加里多、苦土、燐酸中、酸度弱で養分は中庸である。風蝕のおそれはある。特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、菜豆、ビート、馬鈴薯らが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

半乾を呈する火山灰土壤で、大なる問題は少ないが、火山灰土壤で地力が減耗しやすいから堆肥、塩基の補給を忘れてはならない。防風林の設置、燐酸肥料の多施用も必要である。

D 分布

北海道中川郡本別町川東

記載責任者 菊地 晃 二(北海道中央農試)

昭和43年3月31日

川 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.8cm内外，腐植含量1.11%，土性はL i Cである。色は1.0 Y Rで明度2，彩度1である。礫なく，発達中度の細粒構造あり，細孔あり，ち密度1.2で疎，pH (H₂O) 5.8である。下層との境界は判然である。

第2層は厚さ1.7cm内外，腐植含量1.14%，土性はO Lである。色は1.0 Y Rで明度2，彩度3である。礫なく，発達弱～中度の細粒構造あり，細孔あり，ち密度1.3で疎，pH (H₂O) 5.7である。下層との境界は判然である。

第3層は厚さ1.5cm内外，腐植含量1.50%，土性はO Lである。色は1.0 Y Rで明度1，彩度1である。礫なく，発達弱度の細粒構造あり，細孔あり，ち密度1.8で中，pH (H₂O) 5.8である。下層との境界は判然である。

第4層は厚さ2.0cm内外，腐植含量9.5%，土性はS i Lである。色は1.0 Y Rで明度2，彩度2である。礫なく発達弱～中度の粒状構造あり，細，小，中孔あり，ち密度1.6で疎，pH (H₂O) 5.5，下層との境界は明瞭である。

第5層は厚さ5cm内外，腐植を欠く，火山砂層である。下層との境界は明瞭である。

第6層は7.5cm以下で腐植を含む，土性はO Lである。色は7.5 Y Rで明度2，彩度2である。礫なく，発達中度の粒状構造あり，細，小，中，大孔隙含む，ち密度は1.5～2.0で中である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 中川郡本別町川東 試坑五201

第1層	0～1.8cm	腐植富む，黒(1.0 Y R 1/2)のL i C，礫なく，中度の細粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.2で疎，pH (H ₂ O) 5.8，調査時の湿り半乾，層界判然。
第2層	1.8～3.5cm	腐植富む，黒(1.0 Y R 1/2)のO L，礫なく，中度の細粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.3で疎，pH (H ₂ O) 5.7，調査時の湿り半乾，層界判然。
第3層	3.5～5.0cm	腐植富む，黒(1.0 Y R 1/1)のO L，礫なく，中度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.8で中，pH (H ₂ O) 5.8，調査時の湿り湿，層界判然。
第4層	5.0～7.1cm	腐植含む，黒褐(7.5 Y R 2/2)のS i L，礫なく中度の粒状構造あり，細，小，中孔あり，ち密度1.6で疎，pH (H ₂ O) 5.5，調査時の湿り湿，層界明瞭。
第5層	7.1～7.5cm	腐植欠く，火山砂層である。
第6層	7.5cm～	腐植含む，黒褐(7.5 Y R 2/2)のO L，礫なく，中度の粒状構造あり，細，小，中，大孔隙あり，ち密度1.8で中，調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	3.9		11.2	35.2	27.9	25.7	LiC	87.4		6.44	0.51	12	11.1
2	18~35	4.3		9.7	37.4	30.8	22.1	CL	85.7	2.46	6.61	0.52	12	11.4
3	35~50	4.9		6.4	37.1	34.4	14.2	CL			8.70	0.56	15	15.0
4	50~71	5.6		3.4	36.8	45.6		SiL			5.51	0.39	14	9.5

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.8	0.3	35.1	17.5	0.3	0.3	51.9	1.214	32.9
2	5.7	4.8	0.3	35.4	19.5	2.2	0.3	58.2	1.229	31.0
3	5.8	4.9	0.3	38.8	21.9	1.0	0.2	59.4	1.391	15.6
4	5.5	4.7	0.3	29.4	10.9	0.6	0.6	39.3	735	3.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としてはチエトイ統，本別統があるが，チエトイ統とは腐植層序が異なり，本別統とは下層土の母材が異なるので本統と区分した。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され，馬鈴薯，小豆，菜豆，ビートらが作付けられている。

E 農業上の留意事項

深耕 有機物施用

F 分布

北海道中川郡本別町川東

調査及び記載責任者 菊地 晃二（北海道中央農試）

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
川東 - 川東	llpwn

② 土壌区別説明

川東統一川統区

示性分級式（畑）

土表有表耕	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾入	侵耐
壤	効上	土土の	然	層分換	〃〃効	害理	冠す	斜	為
生土	土土の	の風		の性	難量	物的	水へ	然	為
産土	土土の	の風		の性	難量	物的	水へ	然	為
力	土の	の風		の性	難量	物的	水へ	然	為
可	の層	のの	乾の水	水潤肥定	塩の石	苦加磷	害質	害の	の
能	の礫	粘土		基	灰土	里酸要	の	危危	傾方
性厚	含難	土着の	乾	汰	状豊含		有	害險	傾方
等	深	性性	性性	度力	力態	量〃〃	素度	無性	度度
級	ささ	量易	湿	度	否		性	性	斜
	t d g p	w	f	n		i a s	e		
	I I I II	3 2 2 II	2 2 2 I	1 2 1 II	1 3 2 1 2 1	I 1 1 I 1 1	I 1 1 I 1	I 1 1 1	
	簡略分級式		II p w n						

A 土壤区の特徴

この土壤区は川東統に属する。表土の厚さは25cm以上、有効土層も1m以上で深い。表土は強粘質で、耕起、礫土はかなりの抵抗がある。地下水位が中で過湿、過干のおそわは少ない。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態良好で自然肥沃度は良好である。石灰、燐酸多、加里中、苦土少で養分は中庸である。風蝕、水蝕のおそわも少なく、特徴な障害もない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化されている。小豆、菜豆、ビート、馬鈴薯が主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

表層は火山灰土と下層の沖積土の混在して作土を作っている。水分状態は適湿である。従って大なる問題点はない。更に地力を増進維持するために有機物を施用しつつ漸次深耕すべきである。

D 分 布

北海道中川郡本別町川東

記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農試）

昭和43年3月31日

押 帯 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量1.67%、土性はOLである。色は10YRで明度2、彩度1である。礫なく、発達弱～中度の細粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)5.9、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ15cm内外、腐植含量1.72%、土性はOLである。色は7.5YRで明度2、彩度3である。礫なく、発達中度の細粒状構造あり、細孔含む、小孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ13cm内外，腐植含量10.5%，土性はLである。色は10YRで明度3，彩度3である。礫なく，発達弱度の細塊状構造あり，細，小孔含む，ち密度15で疎，pH(H₂O)5.8である。下層との境界は漸変する。

第4層は50cm以下で腐植を欠く，土性はLである。色は10YRで明度5，彩度8である。礫なく発達弱度の塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度8ですこぶる疎，pH(H₂O)5.1である。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡本別町押帯 試坑No157

第1層	0~20cm	腐植富む，黒(10YR1/2)のCL，礫なく，発達弱~中度の細粒状構造あり，細，小孔あり，ち密度16で疎，pH(H ₂ O)5.9，調査時の湿り湿，層界判然。
第2層	20~35cm	腐植富む，黒(7.5YR3/2)のCL，礫なく，発達中度の粒状構造あり，細孔含む，小孔あり，ち密度16で疎，pH(H ₂ O)5.8，調査時の湿り湿，層界判然。
第3層	35~48cm	腐植富む，暗褐(10YR3/3)のL，礫なく，弱度の細塊状構造あり，細，小孔含む，ち密度15で疎，pH(H ₂ O)5.8，調査時の湿り湿，層
第4層	48cm~	腐植欠く，黄褐(10YR8/5)のL，礫なく，弱度の塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度8ですこぶる疎，pH(H ₂ O)6.1，調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	6.4		4.3	42.5	33.6	19.6	CL	60.3	2.25	9.69	0.69	1.4	16.7
2	20~35	10.3		4.1	33.2	39.5	23.2	CL	54.5	2.21	9.98	0.77	1.3	17.2
3	35~48	10.9		6.2	57.9	23.8	12.1	L	53.5		6.09	0.48	1.2	10.5
4	48~	9.9		7.6	51.8	37.5	3.1	L						

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.7	0.9	38.0	15.2	1.2	0.2	42.7	1.467	13.2
2	5.8	4.7	0.6	48.9	9.9	0.8	0.2	22.6	2.552	1.8
3	5.8	5.0	0.3	35.7	8.6	1.1	0.1	27.1	2.579	1.3
4	6.1	5.3	0.6	24.2	7.7	3.1	0.3	35.3	1.940	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては下押帯統，美蘭利統があるが，下押帯統とは地下水位の浅深，腐植層序が異なり，美蘭利統とは傾斜の程度と腐植層序が異なるのでそれぞれ本統と区分される。

B 植生及び利用状況

かなりの未墾地として残っている。耕地化されたところはえん麦、牧草、デントコンらの飼料作物が主体に栽培されている。この他大豆、菜豆、ビート、馬鈴薯が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

地下水位が高く、排水不良で腐植が多量に集積した火山灰土壌である。組織的な排水溝の設置により完全な排水を図ることが先決問題である。酸性を呈するので炭加の施用が望ましい。また地力が減耗し易いので塩基の補給と燐酸の多施用が大切である。また防風林の設置も忘れてはならない。

D 分 布

北海道中川郡本別町押帯

記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

仙 美 里 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外、腐植含量8.6%、土性はCLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度10ですこぶる疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量11.3%、土性はLiCである。色は2.5Yで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度12で疎、pH(H₂O)5.2、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ10cm内外、腐植欠く、土性はSCLである。色は2.5Yで明度4、彩度2である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度12で疎、pH(H₂O)5.5、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ13cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は5Yで明度7、彩度2である。礫なく、発達弱度の板状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度12で疎である。pH(H₂O)6.0、下層との境界は判然である。

第5層は45cm以下、腐植欠く、土性はSLである。色は5Yで明度7、彩度2である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度26で堅密である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)中川郡本別町西仙美仙

試坑No 90

第1層	0~13cm	腐植含む、黒褐(10YR2/2)のcL、礫なく、発達弱度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度10ですこぶる疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り湿、層界判然
第2層	13~22cm	腐植富む、黒褐(2.5Y2/2)のLiC、礫なく、弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度12で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湿、層界判然
第3層	22~32cm	腐植欠く、黄褐灰(2.5Y2/4)のSCL、礫なく、弱度の塊状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度12で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、層界判然

第4層	3.2~4.5cm	腐植欠く，淡黄灰（5Y2/7）のSL，礫なく，弱度の塊状構造あり 細，小孔あり，ち密度1.2℃疎，pH（H ₂ O）6.0，調査時の湿り湿 層界判然
第5層	4.5cm~	腐植欠く，淡黄灰，（5Y2/7）のSL，礫なく，弱度の塊状構造あり， 孔隙なし，ち密度2.6で，調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 %	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	4.5		6.9	42.9	33.3	16.9	OL			4.99	0.42	11	8.6
2	13~22	7.9		2.6	24.0	33.7	39.7	L1C			6.55	0.63	10	11.3
3	22~32	3.6		25.3	39.1	18.1	17.5	SCL			0.93	0.11	7	1.6
4	32~45	2.3		28.7	36.5	24.7	10.1	SL						

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	CEC			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.8	0.3	24.2	11.8	2.0	0.5	51.0	1,109	25.6
2	5.2	4.3	2.8	37.6	11.7	2.8	0.3	33.7	1,853	3.0
3	5.5	4.3	1.8	11.5	4.3	1.6	0.2	39.0	740	8.7
4	6.0	4.6	0.6	9.8	4.0	3.3	0.2	42.0	574	3.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては美里別統，負簾統，清里統らがあるが，それぞれ有効土層の浅深が本統と異なるので区分した。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

耕地化されているところは大豆，えんち，ビートらが作付けられている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水，心土破碎，酸性矯正，有機物施用

F 分布

北海道中川郡本別町美里別，仙美里

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農試）

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、腐植含量16.5%、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.8で中、pH(H₂O)6.5、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量35.2%、土性はSiCである。色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.8で中、pH(H₂O)5.5、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ6cm内外、腐植欠く、土性はSiCである。色は7.5YRで明度3、彩度4である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H₂O)5.5、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ7cm内外、腐植含む、土性はHCである。色は10YRで明度2、彩度1である。礫なく、発達中度の粒状構造あり、弱度の塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H₂O)5.3下層との境界は判然である。

第5層は厚さ12cm内外、腐植欠く、土性はLiCである。色は10YRで明度5、彩度2である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度1.9で中である。pH(H₂O)5.5、層界漸変する。

第6層は厚さ25cm内外、腐植欠く、色は5Yで明度7、彩度2である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり、細孔あり、ち密度2.0~2.3で中である。層界は判然する。

第7層は厚さ20cm内外、腐植欠く、色は5Yで明度7、彩度2である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、斑紋あり、ち密度2.0で中、層界は判然である。

第8層は90cm以下で、腐植欠く、色は5Yで明度7、彩度1である。礫なく、無構造、孔隙なし、ち密度2.5~3.0で堅密である。

代表的断面形態

(所在地)中川郡本別町月見台

試坑No 24

第1層	0~15cm	腐植含む、黒褐(10YR2/2)のL、礫なく、弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り湿、層界明瞭
第2層	15~25cm	腐植すこぶる含む、黒(10YR1/1)のSiC、礫なく、弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、層界判然
第3層	25~31cm	腐植欠く、暗褐(7.5YR4/3)のSiC、礫なく、弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、層界明瞭
第4層	31~38cm	腐植含む、黒(10YR1/2)のHC、礫なく、中度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、層界判然
第5層	38~50cm	腐植欠く、黄褐灰(10YR2/5)のLiC、礫なく、弱度の塊状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度1.9で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、層界漸変

第6層	50~75cm	腐植欠く、淡黄灰(5Y2/7)、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、斑鉄あり、ち密度20で中、調査時の湿り湿、層界判然
第7層	75~95cm	腐植欠く、淡黄灰(5Y2/7)、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、斑鉄あり、ち密度21で中、調査時の湿り湿、層界判然
第8層	95cm~	腐植欠く、淡黄灰(5Y1/7)、礫なく、無構造、孔隙なし、ち密度25で堅密調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水% 分	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	5.6		7.2	34.6	44.4	13.8	L			9.57	0.68	14.2	16.5
2	15~31	11.1		0.2	12.5	50.8	33.8	S i C			20.42	1.26	16.1	35.2
3	31~38	7.4		2.6	16.4	27.3	53.7	H C			—	—	—	—
4	38~30	6.2		2.3	21.8	42.3	33.6	L i C			1.51	—	—	2.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	5.5	0	37.0	28.2	2.3	0.6	80.7	1,383	6.4
2	5.5	4.4	2.5	27.4	16.3	4.2	0.9	25.4	2,666	4.1
3	5.3	4.0	4.0	40.5	6.6	2.5	0.6	27.5	1,784	3.9
4	5.5	3.8	3.8	22.3	4.7	3.3	0.3	22.4	1,030	1.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては仙美里統、清里統らがあるが、仙美里統とは傾斜の程度が異なり、また清里統とは有効土層の浅深が異なるのでそれぞれ区分した。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 緩傾斜~傾斜地

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

まだ未墾地も多い。耕地化されたところは牧草、えん麦、デントコンらの飼料作物が主として作付けられている。その他としてはビート、大豆、馬鈴薯が栽培されている。

E 農業上の留意事項

心土破砕、排水、保全耕作、酸性矯正、有機物の施用

F 分布

北海道中川郡本別町月見台

調査及び記載責任者 菊地晃二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壤区名 簡略分級式
 月見台一月見台 III w I I d p f a s e

② 土壤区別説明

月見台統 - 月見台区

示性分級式 (畑)

土表有表耕	表表表	透保湿	保固土	産置	有微酸	障有物	災増地	傾自傾入	侵耐耐
壤効土	耘土の	然	層分換	の性	態量	害理	冠す	斜為	水風
生土の	の風	水水潤肥定塩	石苦加燐	基灰土里酸要	害質障	害の	のの	の傾力	水風
産土の	の風	乾の水水潤肥定塩	石苦加燐	基灰土里酸要	害質障	害の	のの	の傾力	水風
力土の	の風	乾の水水潤肥定塩	石苦加燐	基灰土里酸要	害質障	害の	のの	の傾力	水風
可の層	のの	乾の水水潤肥定塩	石苦加燐	基灰土里酸要	害質障	害の	のの	の傾力	水風
能の礎	粘土	沃	状豊含	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
性厚の	難着の	性性度	力力態	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
等深含	性性度	性性度	力力態	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
級ささ	量易	性性度	力力態	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
III I II I II 2 2 2	III 2 2 3	II 1 2 2	I 1 1 1 2 2 1	I 1 1	II 1 2 II 2		II 2 2 2		
簡略分級式 III w I I d p f a s e									

A 土壤区の特徴

この土壤区は月見台統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は70cm内外でやや浅い。表土の土性は粘質C、耕起、砕土はやゝ困難である。70cm内外に盤層があるので1時的に過湿になる。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態は中庸である。石灰、苦土、加里多、燐酸中、酸度弱で養分は多い。3~8度の傾斜を呈する。

水蝕、風蝕のおそれは多少ある。特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

未墾地もまだかなり残っている。耕地化されたところは牧草、えん麦、デントコンが主体として作付けられている。他はビート、大豆、菜豆らが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

下層堅密のため排水不良となつているので明渠、暗渠排が必要である。しかしまだこれだけでは不充分であるのでこれと併用して心土破砕を行つたらよい。3~8度の傾斜で侵蝕のおそれが大きいから保全耕作や、緑作帯の設置も必要である。また表土は火山灰土のため地力が減耗しやすいから堆厩肥、塩基も補給も忘れてはならない。防風林の設置も必要である。

D 分布

北海道中川郡本別町、月見台
 記載責任者 菊地晃二 (北海道立中央農試)
 昭和43年3月31日

美 里 別 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外，腐植含量11.8%，土性はOLである。色は10YRで明度2，彩度2である。礫なく，発達弱度の細粒状構造あり，孔隙なし，ち密度13で疎，pH(H₂O)5.5，層界は明瞭。

第2層は厚さ10cm内外，腐植含量8.9%，土性はLである。色は10YRで明度2，彩度2である。礫なく，発達弱度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度19で中，pH(H₂O)5.8，層界は判然。

第3層は厚さ10cm内外，腐植含量8.9%，土性はLである。色は7.5YRで明度3，彩度3である。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，細，小，中孔あり，ち密度15で疎，pH(H₂O)5.8，層界は判然である。

第4層は厚さ7cm内外，腐植欠く，土性はSLである。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度21で中，pH(H₂O)6.0，層界は判然である。

第5層は厚さ35cm内外，腐植欠く，土性はOLである。色は10YRで明度7，彩度2である。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，孔隙なし，斑鉄あり，ち密度15で疎，pH(H₂O)6.4，層界は判然である。

第6層は厚さ5cm内外，腐植なし，色は10YRで明度7，彩度2である。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，孔隙なし，斑紋あり，ち密度20で中，層界は判然である。

第7層は85cm以下で，腐植なし，色は10YRで明度7，彩度2である。礫なく，無構造，孔隙なし，ち密度20～20で中～密である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)中川郡本別町拓農

試坑No 42

第1層	0～18cm	腐植含む，黒褐(10YR2/2)のOL，礫なく，弱度の細粒状構造あり，孔隙なし，ち密度13で疎，pH(H ₂ O)5.5，調査時の湿り半乾，層界明瞭
第2層	18～28cm	腐植含む，黒褐(10YR2/2)のL，礫なく，弱度の細粒状構造あり，細孔あり，ち密度19で中，pH(H ₂ O)5.8，調査時の湿り湿層界判然
第3層	28～38cm	腐植含む，暗褐(7.5YR3/3)のL，礫なく，弱度の細塊状構造あり，細，小，中孔あり，ち密度15で疎，pH(H ₂ O)5.8，調査時の湿り湿，層界判然
第4層	38～45cm	腐植欠く，淡黄褐灰(7.5YR2/7)のSL，礫なく，発達弱度の塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度や\r密，pH(H ₂ O)6.0，調査時の湿り湿，層界判然
第5層	45～80cm	腐植欠く，淡黄褐灰(10YR2/7)のSL，礫なく，弱度の塊状構造あり，孔隙なし，斑鉄あり，ち密度15で疎，pH(H ₂ O)6.4，調査時の湿り柔，層界判然
第6層	80～85cm	腐植く，淡黄褐灰(10YR2/7)，礫なく，弱度の塊状構造あり

第7層	8.5cm~	孔隙なし，斑鉄あり，ち密度2.0で中，調査時の湿り湿，層界半然腐植欠く，淡黄褐灰(10YR2/7)，礫なく，無構造，孔隙なし，ち密度2.0~2.5で密，調査時の湿り湿。
-----	--------	--

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒徑組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	5.3		7.5	36.9	32.2	22.4	CL	81.2	1.95	6.84	5.3	12	11.8
2	18~38	5.4		7.4	45.7	34.4	12.5	L	93.6	1.84	5.16	0.43	11	8.9
3	38~45	3.9		9.4	57.3	27.5	5.8	SI ₁			1.04			1.8
4	45~80	2.5		14.8	50.6	27.2	7.4	SL						

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MEO	K ₂ O			
1	5.5	4.5	1.5	33.9	10.7	1.4	0.6	33.4	1.265	8.9
2	5.8	4.6	0.9	29.0	8.5	1.6	0.5	30.9	1.642	9.3
3	6.0	4.5	0.9	17.9	5.7	1.9	0.8	33.3	1.270	2.5
4	6.4	4.9	0.3	11.3	5.1	2.9	0.6	46.4	6.24	2.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては拓農統，勇足東統，本別統らがあるが，本別統とは地下水位の高低が異なり，拓農統，勇足統とは下層の堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

まだ未墾地も多く残っている。耕地化されたところは大豆，えん麦，菜豆，ビートらが作付けられている。

E 農業上の留意事項

排水，酸性矯正，有機物の施用

F 分布

北海道中川郡本別町，拓農

調査及び記載責任者 菊地晃二（北海道立中央農試）

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土壌区名	簡略分級式
仙美里西一仙美里西	III w II p f n a e

② 土壌区別説明

第1層は厚さ2.2cm内外, 腐植含量1.4%, 土性はcLである。色は10yRで明度2, 彩度1である。礫なく, 発達弱度の細粒状構造あり, 板状構造あり, 孔隙なし, ち密度1.7で疎である, pH(H₂O)5.9, 層界は明瞭である。

第2層は厚さ5cm内外, 腐植含量2.6%, 土性はLiCである。色は10yRで明度1, 彩度1である。礫なく, 発達弱度の粒状構造あり, 孔隙なし, ち密度1.0~1.5で疎, pR(H₂O)5.4, 層界は判然である。

第3層は厚さ1.0cm内外, 腐植含量4.3%, 土性はcLである。色は10yRで明度3, 彩度2である。礫なく, 板状構造あり, 小孔あり, 斑鉄あり, ち密度1.7で疎, pH(H₂O)5.8, 層界は判然である。

第4層は厚さ1.6cm内外, 腐植欠く, 土性はSLである。色は2.5Yで明度6, 彩度2である。礫なく, 発達弱度の塊状構造あり, 細, 小, 中孔あり, 斑鉄あり, ち密度1.7で疎, pH(H₂O)5.6である。層界は漸変する。

第5層は5.3cm以下で腐植欠く, 土性はSLである。色は2.5Yで明度6, 彩度2である。礫なく, 単粒状構造, 孔隙なし, ち密度は1.5で疎である。

代表的断面形態

(所在地)中川郡本別町美里別

試坑No 101

第1層	0~2.2cm	腐植富む, 黒(10YR1/2)のcL, 礫なく, 弱度の粒状構造あり, 孔隙なし, ち密度1.7で疎, pH(H ₂ O)5.9, 調査時の湿り半乾, 層界明瞭
第2層	2.2~2.7cm	腐植すこぶる富む, 黒(10YR1/1)のLiC, 礫なく, 弱度の粒状構造あり, 孔隙なし, ち密度1.1で疎, 調査時の湿り湿, 層界判然
第3層	2.7~3.7cm	腐植あり, 黒褐(10YR2/3)のcL, 礫なく, 板状構造, 小孔あり, 斑鉄あり, ち密度1.7で疎, pH(H ₂ O)5.8, 調査時の湿り湿, 層界判然
第4層	3.7~5.3cm	腐植欠く, 黄褐灰(2.5Y2/6)のSL, 礫なく, 弱度の塊状構造あり, 細, 小, 中孔あり, 斑鉄あり, ち密度1.7で疎, pH(H ₂ O)5.6, 調査時の湿り湿, 層界漸変する。
第5層	5.3cm~	腐植欠く, 黄褐灰(2.5Y2/6)のSL, 礫なく, 無構造, 孔隙なし, ち密度1.2で疎, 調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~2.2	5.3		3.4	39.3	40.6	16.7	cL	76.2	2.29	6.61	0.50	1.3	11.4
2	2.2~2.7	8.4		0.8	26.1	35.3	37.8	LiC	68.3	2.28	12.53	0.91	1.3	21.6
3	2.7~3.7	3.6		4.3	45.0	26.0	24.7	SL			2.49	2.49	1.2	4.3
4	3.7~5.3	3.5		11.8	42.1	27.7	18.4	SL						

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.9	0.3	26.2	13.1	1.6	0.3	52.7	1,237	6.8
2	5.4	4.5	1.8	50.0	18.8	3.0	0.3	41.0	2,116	2.2
3	5.8	4.6	1.2	18.3	5.3	3.1	0.3	32.8	1,182	2.5
4	5.6	4.4	1.5	17.1	6.6	3.9	0.6	40.0	387	1.7

A-2 地の土壌統との関係

本統に隣接する統としては拓農統，本別統らがあるが本別統とは腐植層序，地下水位の高低などが異なり，冠農統とは心土の礫の有無により区分した。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦～緩傾斜

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され，大豆，菜豆，ビートらが作付けられている。

E 農業上の留意事項

排水，磷酸肥料の多施用

F 分布

北海道中川郡本別町美里別

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農試）

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
下美里別-下美里別	II w p f n a e

② 土壌区別説明

下美里別統 - 下美里別区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	表表表	土透保湿	自保固土	産置	障有微酸	災有物	増地	傾自傾入	侵耐耐
壤効土土	土土土	然	層分換	効	害理冠す	害質水り	然斜為	水風	
産土土	土土土	の風	の性	態量	害質水り	害質水り	のの	の	蝕
力層の	のの	乾の	水水潤肥	定塩の	石苦加	磷	のの	傾力傾	蝕蝕
可の礫	粘土	沃	基灰土	里酸要	の	害	危	傾力傾	蝕蝕
能厚深	難土着	乾	沃	狀	豐含	無性	險險	斜向斜	度性性
等級	ささ量易	性性	性性	度力力	態量	素度	無性	險險	斜向斜
	t d s p	w	f	n	i	a	s	e	
	I I I	2 2 2	2 2 3	1 2 2	1 1 2 2 2 1	1 1 1	2 1 1	2 2 2	
	簡 略 分 級 式 II w p f n a e								

A 土壤区の特徴

この土壤区は下美里別統に属する。表土の厚さは2.5cm以上有効土層は1m以上で共に深い。表土の土性は粘質で、耕起、碎土にやゝ抵抗を感じる。伏流水の排水不良地である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態で自然肥沃度は中庸である。石灰、苦土多、加里、磷酸中、酸度弱で養分は中庸である。一時的増冠水をうける危険性あり、風蝕のおそれもある。

特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、大豆、菜豆、ビートらが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

排水不良のためまず第1に明渠、暗渠をすることが先決である。下層土の固定力が大きいので深耕時には多量の磷酸肥料を土壤改良資材として投入すべきだろう。また表層は火山灰土のため地力が減耗し易いから堆肥、塩基の補給も忘れてはならない。

D 分 布

北海道中川郡本別町美里町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

上 美 里 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.5cm内外、腐植含量2.9%、土性はLである。色は1.0YRで明度2、彩度1である。礫なく、発達弱度の粒状構造であり、孔隙なし、ち密度1.5疎、pH(H₂O)5.9、層界は判然である。

第2層は厚さ5cm内外、腐植含量3.3%、土性はLSである。色は1.0YRで明度2、彩度1である。礫なく、発達中度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎である。pH(H₂O)6.0、下層との層界は判然である。

第3層は厚さ1.0cm内外、腐植欠く、土性はLである。色は1.0YRで明度3、彩度3である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)6.1、層界は明瞭である。

第4層は厚さ3cm内外、腐植含量2.1%、土性はLSである。色は1.0YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔含む、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)6.1、層界は判然する。

第5層は厚さ2.5cm内外、腐植欠く、土性はLである。色は1.0YRで明度6、彩度3である。礫なく、単粒状構造、孔隙なし、ち密度1.3で疎、層界は漸変する。

第6層は5.8cm以下で腐植欠く、土性はSである。色は1.0YRで明度6、彩度4である。礫なく、単粒構造、孔隙なし、ち密度1.3で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)中川郡本別町上美里別

試坑No 55

第1層	0 ~ 1.5cm	腐植含む、黒(1.0YR 2/1)のL、礫なく、弱度の粒状構造あり 孔隙なし、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾 層界判然
-----	-----------	---

第2層	15~20cm	腐植あり，黒(10YR2/1)のLS，礫なく，中度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.5で疎，pH(H ₂ O)6.0，調査時の湿り半乾，層界判然
第3層	20~30cm	腐植欠く，暗褐(10YR3/3)のS，礫なく，弱度の細塊状構造あり，細孔あり，ち密度1.5で疎，pH(H ₂ O)6.1，調査時の湿り半乾，層界明瞭
第4層	30~33cm	腐植あり，黒褐(10YR2/2)のSL，礫なく，弱度の細塊状構造あり，細孔，小孔含む，ち密度1.5で疎，pH(H ₂ O)6.1，調査時の湿り半乾，層界判然
第5層	33~58cm	腐植欠く，灰黄褐(10YR6/3)のS，礫なく，単粒状構造孔隙なし，ち密度1.3で疎，調査時の湿り半乾，層界漸変
第6層	58cm~	腐植欠く，灰黄褐(10YR6/4)のS，礫なく，単粒状構造，孔隙なし，ち密度1.3で疎，調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素%	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	4.6		28.6	34.0	27.3	10.1	L	105.9	1.96	4.58	0.40	11	7.9
2	15~20	2.1		61.5	23.6	5.6	9.3	LS	117.1	2.65	1.91	0.16	11	3.3
3	20~30	1.8		53.6	35.6	9.4	1.4	SL			0.81	0.80	10	1.4
4	30~33	2.4		29.7	29.7	15.7	0.9	SL			1.22	0.08	13	2.1
5	33~58	0.6		51.1	51.1	2.6	0	S			—			—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.7	0.6	20.5	8.2	0.7	0.4	42.0	1.203	14.7
2	6.0	4.7	0.6	11.1	3.9	1.5	0.1	36.2	9.15	3.7
3	6.1	4.7	0.6	7.8	2.5	1.1	0.1	16.5	10.40	5.7
4	5.8	4.6	0.9	10.3	3.2	0.5	0.2	32.1	9.37	4.9
5	6.1	4.8	0.3	3.3	1.2	0.9	0.2	35.1	3.58	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては勇足中央統，チエイト統があるが，チエイト統とは母材，堆積様式が異なり，勇足中央統とは，地下水位の高低が異なるのでそれぞれ本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地 形 緩傾斜

C 気 候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され，主として大豆，菜豆，ビート，馬鈴薯らが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

緩傾斜を呈し、侵蝕のおそれがあるので緑作帯の設置や保全耕作が必要である。作土の腐植が少ないので堆厩肥、緑肥のすき込みなどの有機物の施用を忘れてはならない。また火山灰土で地力が減耗し易いので塩基の補給も大切である。防風林の設置も必要である。

D 分 布

北海道中川郡本別町上美里別

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

拓 農 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ5cm内外、腐植含量12.3%、土性はCLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎である。pH(H₂O)5.8、層界は明瞭である。

第2層は厚さ5cm内外、腐植含量7.4%内外、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度1である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H₂O)5.4、層界は判別である。

第3層は厚さ7cm内外、腐植含量7.4%内外、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細、小孔含む。ち密度1.8で中、pH(H₂O)5.4、層界は判然である。

第4層は厚さ5cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は10YRで明度3、彩度4である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細、小孔含む、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.5である。層界は判然である。

第5層は厚さ25cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は10YRで明度5、彩度8である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔含む、小、中孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.7、層界は漸変する。

第6層は46cm以下で、腐植欠く、土性はSである。色は10YRで明度5、彩度8である。礫なく単粒構造、孔隙なし、ち密度は1.8で中である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)中川郡本別町拓農

試坑No 36

第1層	0~15cm	腐植含む、黒褐(10YR2/2)のCL、礫なく、弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第2層	15~20cm	腐植含む、黒(10YR2/1)のL、礫なく、弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿、層界判然
第3層	20~27cm	腐植含む、黒褐(10YR2/2)のL、礫なく、弱度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の

第4層	2.7~3.2cm	湿り湿, 層界判然 腐植欠く, 暗褐(10YR5/4)のL, 礫なく, 弱度の細塊状構造あり 細, 小孔あり, ち密度15で疎, pH(H ₂ O) 5.5, 調査時の湿り湿, 層界判然
第5層	3.2~4.6cm	腐植欠く, 黄褐(10YR5/8)のH, 礫なく, 弱度の塊状構造あり 細, 小, 中孔あり, ち密度15で疎, pH(H ₂ O) 5.7, 調査時の湿 り湿, 層界漸変
第6層	4.6cm~	腐植欠く, 黄褐(10YR5/8)のS, 礫なく, 単粒構造, 孔隙なし, ち密度18で中, 調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水 分%	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重g	真比 重	全炭 素%	全窒 素%	炭素 率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~1.5	5.3		5.8	41.9	37.2	15.1	OL	104.0	2.11	7.13	0.58	1.2	12.3
2	1.5~2.7	4.8		10.3	39.3	52.2	8.2	L	100.3	1.97	4.29	0.41	1.0	7.4
3	2.7~3.2	6.0		11.9	55.2	26.1	6.8	OL			1.97			3.4
4	3.2~4.6	3.0		10.6	57.7	25.6	6.1	OL						

層位	pH		置換酸 度 Y ¹	塩基置換容 量me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.9	0.3	3.41	1.67	1.4	0.3	51.7	1.393	11.8
2	5.4	4.4	2.5	2.76	8.0	0.2	0.2	30.5	1.640	10.1
3	5.5	4.3	3.7	2.24	7.2	0.6	0.2	34.5	1.492	2.1
4	5.7	4.3	2.5	1.40	6.3	2.9	0.2	46.5	7.94	2.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては下美里別統, 美里別統, 美里別西統らがあるが美里別統とは腐植層序, 地下水位の高低が異なり, 下美里別統, 美里別西統とは下層の礫の有無で本統と区分した。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

まだかなり未墾地として残っている。耕地化されているところは大豆, ビート, えん麦, 牧草らが作付けられている。

E 農業上の留意事項 排水, 酸性矯正

F 分 布 北海道中川郡本別町拓農

調査及び記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農試)

月 日 昭和14年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
拓農-拓農	ⅢwⅡpfae

② 土区別説明

拓農統一-拓農区

示性分級式 (畑)

土表有表耕	表表土	透保湿	自保固土	養置	有微酸	障有物	災增地	傾自傾人	侵耐
壤効土	土土	然	屬分換	の性	態量	害理	冠す	斜為	水風
生土	土の	の風	の性	態量	害理	冠す	斜為	水風	耐
産土	の風	の乾	の性	態量	害理	冠す	斜為	水風	耐
力の層	の乾	の水	の性	態量	害理	冠す	斜為	水風	耐
可能	の粘	水潤肥	の性	態量	害理	冠す	斜為	水風	耐
厚性	難土	沃	の性	態量	害理	冠す	斜為	水風	耐
等	産性	性度	力力	態量	素度	無性	度度	斜向斜	度性
級	さ	量	易	度	否	性	性	斜	度
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	ⅢⅠⅠⅠ	Ⅱ222	Ⅲ223	Ⅱ122	Ⅰ112121	Ⅰ11	Ⅱ21	Ⅰ1	Ⅱ222
簡略分級式	ⅢwⅡpfae								

A 土壤区の特徴

この土壤区は拓農統に属する。表土の厚さは2.5cm以上、有効土層の深さは1m以上でともに深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。地下水位が高く排水不良である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態で自然肥沃度は中庸である。石灰、苦土、磷酸多、加里中、弱度中で養分は中である。一時的に増冠水のおそれがある。風蝕のおそれも多少ある。特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

またかなり未墾地として残っている。耕地化されたところは大豆、えん麦、ビートらが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

耕水不良であるから第1に明渠、暗渠排水をすることが先決である。また酸性を呈するので炭カルの施用が必要である。また火山灰土で地力が減耗し易いから堆肥、塩基の補給も大切である。

D 分布 北海道中川郡本別町拓農

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農試)

月 日 昭和43年3月31日

美 蘭 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10cm内外、腐植含量8.1%，土性はLである。色は10YRで明度2，彩度1である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり，ち密度1.4で疎，pH(H₂O) 5.8，層界は判然である。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量3.3%，土性はLである。色は7.5YRで明度4，彩度4である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.3で疎である。pH(H₂O) 5.9，層界は判然である。

第3層は厚さ30cm内外、腐植欠く，土性はOLである。色は7.5YRで明度5，彩度6である。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，孔隙なし，ち密度1.6で疎，pH(H₂O) 5.9である。層界は不規則明瞭である。

第4層は50cm以下で円礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 中田郡本別町勇足 試坑 NO 0179

第1層	0~10cm	腐植含む，黒(10YR2/1)のL，礫なく，弱度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.4で疎，pH(H ₂ O) 5.8，調査時の湿り半乾層界判然
第2層	10~20cm	腐植あり，褐(7.5YR4/4)のL，礫なく，弱度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.3疎，pH(H ₂ O) 5.9，調査時の湿り湿，層界判然
第3層	20~50cm	腐植欠く，明褐(7.5YR5/6)のL，礫なく，弱度の塊状構造あり，孔隙なし，ち密度1.6で疎，pH(H ₂ O) 5.9，調査時の湿り湿，層界不規則明瞭
第4層	50cm~	円礫層

層位	採取部 位 cm	水 分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	塊地容 積重g	真比 重	全炭 素%	全窒 素%	炭素 率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~10	4.1		3.7	50.3	32.9	13.1	L	9.04		4.70	0.51	15	8.1
2	10~20	5.2		5.7	45.0	36.1	13.2	L	8.68	2.70	1.91	0.15	12	3.3
3	20~50	4.4		7.5	46.7	29.3	16.5	L						

層位	pH		置換酸 度 Y ¹	塩基置換容 量me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	E ₂ O			
1	5.8	4.8	0.3	21.4	7.7	0.4	0.3	3.75	1.174	8.3
2	5.9	4.6	1.2	20.1	7.1	1.3	0.4	3.71	1.559	1.7
3	5.9	4.7	0.9	16.9	6.7	2.9	0.3	4.15	1.198	2.5

苦土少，酸度中で養分は中である。風蝕のおそれがある。

特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

大半が耕地化され、ビート、大豆、えん麦らが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地があるので地力の侵蝕防止対策が先決である。従つて等高線栽培，緑作帯の設置，その他保全耕作などに力をいれる必要がある。また表土は火山灰土で地力が減耗し易いので堆肥，緑肥の導入，塩基の補給も忘れてはならない。

D 分 布 北海道中川郡本別町，勇足，美蘭別

記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

フ ラ ツ ナ イ 統

(I) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ30cm内外，腐植含量6.4%，土性はLiCである。色は10YRで明度2，彩度2である。礫なく，発達弱度の細粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.6で疎，pH(H₂O)5.9，層界は明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外，腐植含量6.8%，土性はLiCである。色は10YRで明度2，彩度1である。礫なく，発達強度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.8で中，pH(H₂O)5.9，層界は判然である。

第3層は厚さ28cm内外，腐植含量2.8%，土性はLiCである。色は10YRで明度4，彩度2である。礫なく，発達中度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度は1.6で疎，pH(H₂O)6.0，層界は漸変する。

第4層は78cm以下で腐植欠く，土性はScLである。色は10YRで明度5，彩度3である。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，細孔あり，ち密度1.8で中，pH(H₂O)6.1である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 中川郡本別町勇足 試坑NO049

第1層	0～30cm	腐植含む，黒褐(10YR2/2)のLiC，礫なく，発達弱度の細粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.6で疎，pH(H ₂ O)5.9，調査時の湿り半乾，層界明瞭
第2層	30～50cm	腐植含む，黒(10YR2/1)のLiC，礫なく，強度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.8で中，pH(H ₂ O)5.9，調査時の湿り湿，層界判然
第3層	50～78cm	腐植あり，黄褐灰(10YR4/2)のLiC，礫なく，中度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度1.6で疎，pH(H ₂ O)6.0，調査時の湿り湿，層界漸変
第4層	78cm～	腐植欠く，灰黄褐(10YR5/3)のScL，礫なく，弱度の塊状構造あり，細孔あり，ち密度1.8で中，pH(H ₂ O)6.1，調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水 分%	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比 重	全炭 素%	全窒 素%	炭素 率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~30	3.8		3.4	37.1	31.8	27.7	LiC			3.71	0.31	11	6.4
2	30~50	5.9		2.8	17.6	43.7	35.9	LiC			3.94	0.38	10	6.8
3	50~78	4.8		20.0	18.2	31.6	30.2	LiC			16.4	0.17	9	2.8
4	78~	3.9		13.8	46.9	19.9	19.4	ScL						

層位	pH		置 換 酸 度 Y ¹	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.8	0.3	26.3	8.5	1.0	0.5	33.4	164	31.2
2	5.9	4.8	0.3	26.6	11.8	0.4	0.4	47.0	1068	5.5
3	6.0	4.7	0.3	28.9	16.0	0.4	0.4	58.1	972	2.9
4	6.1	4.7	0.3	20.8	10.5	0.4	0.4	52.4	250	5.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては勇足東統、勇足中央統らがあるが地下水位の高低がそれぞれ異なるので本統と区分される。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地 形 緩傾斜

C 気 候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8 mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され大豆、小豆、菜豆、ビートらが主に栽培されている。

E 農業上の留意事項

保全耕作、有機物の施用、深耕

F 分 布 北海道中川郡本別町、勇足、フラツナイ、嫌侶

調査及び記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
フラツナイーフラツナイ	II p w f n a s e

第2層は厚さ11cm内外，腐植含量16.7%，土性はSCである。色は10YRで明度1，彩度1である。礫なく，発達弱度の粒状構造あり，細，小孔あり，ち密度15で疎，pH（H₂O）5.6，層界は判然。

第3層は厚さ20cm内外，腐植欠く，土性はLである。色は10YRで明度2，彩度3である。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，細，小，中孔あり，ち密度16で疎，pH（H₂O）5.6，層界は漸変。

第4層は厚さ25cm内外，腐植欠く，土性はSLである。色は10YRで明度5，彩度4である。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，細，小，中孔あり，ち密度20で中，pH（H₂O）5.9，層界は判然。第5層は73cm以下で腐植欠く，色は5Yで明度7，彩度1である。礫なく，無構造，孔隙なし，斑鉄あり，ち密度25で密。

代表的断面形態

（所在地）中川郡本別町活込 試坑 NO 47

第1層	0～17cm	腐植富む，黒（10YR2/1）のL，礫なく，弱度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度14で疎，pH（H ₂ O）5.8，調査時の湿り湿，層界明瞭
第2層	17～28cm	腐植富む，黒（10YR1/1）のSC，礫なく，弱度の粒状構造あり，細，小孔あり，ち密度15で疎，pH（H ₂ O）5.6，調査時の湿り湿，層界判然
第3層	28～48cm	腐植欠く，暗褐（10YR3/3）のL，礫なく，弱度の粒状構造あり，細，小，中孔あり，ち密度16で疎，pH（H ₂ O）5.6，調査時の湿り湿，層界漸変
第4層	48～73cm	腐植欠く，灰黄褐（10YR5/4）のSL，礫なく，弱度の塊状構造あり，細，小，中孔あり，ち密度20で中，pH（H ₂ O）5.9，調査時の湿り湿，層界判然
第5層	73cm～	腐植欠く，淡黄灰（5Y7/1），礫なく，無構造，孔隙なし，斑鉄あり，ち密度25で密，調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 %	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～17	6.5		6.0	42.9	37.6	13.5	L	61.8	1.97	9.05	0.63	1.4	15.6
2	17～28	7.8		9.1	46.2	17.2	27.5	SC	80.6	1.74	9.67	0.67	1.4	16.7
3	28～48	6.0		21.0	42.2	31.1	5.7	L	86.9	1.85	3.54			6.1
4	48～73	3.5		28.6	43.0	26.5	1.9	SL						

A 土壤区の特徴

この土壤区は活込統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、砕土はやゝ抵抗がある。伏流水のため過湿のおそれがある。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態で自然肥沃度は中庸である。石灰、苦土、加里、燐酸多、酸度中で養分は多い。地すべりの危険性が多少ある。侵蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され大豆、馬鈴薯、えん麦、牧草らが主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

伏流水による排水不良のため明渠、暗渠排水は勿論必要であるが、それでは効果が少ないので山地に接する部位でいつたんくいとめるように傾斜と直角に明渠の必要があるうかと思われる。侵蝕を防ぐためや緑作帯の設置や等高線栽培が大切である。また深耕の際は下層の燐酸吸収力が大きいので土壤改良資材との燐酸肥料の多施用が必要である。表土は火山灰土で地力が減耗し易いので堆肥、塩基の補給も忘れてはならない。

D 分布

北海道中川郡本別町活込

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

勇 足 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量10.6%、土性はCLである。色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく、発達弱度の斑状構造あり、細孔あり、ち密度8ですこぶる疎、pH(H₂O)5.8、層界は判然。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量10.2%、土性はCLである。色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく、発達弱～中度の粒状構造あり、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.8、層界は判然。

第3層は厚さ24cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4、彩度4である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細、小孔あり、ち密度16で疎、pH(H₂O)5.6、層界は明瞭。

第4層は厚さ10cm内外、腐植含む、土性はCLである。色は10YRで明度3、彩度である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度10ですこぶる疎、層界は判然である。

第5層は63cm以下で砂層である。単粒構造でち密度10ですこぶる疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 中川郡本別町勇足 試坑No.148

第1層	0～20cm	腐植富む、黒(10YR1/1)のCL、礫なく、弱度の粒状構造あり、ち密度8ですこぶる疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り湿、層界判然。
第2層	20～30cm	腐植富む、黒(10YR1/1)のCL、礫なく、弱～中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り湿、層界判然。

第3層	30~54cm	腐植欠く、(10YR4/4)のSC、礫なく、弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第4層	54~63cm	腐植あり、暗(10YR3/4)のCL、礫なく、弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、調査時の湿り半乾、層界判然。
第5層	63cm~	腐植欠く、砂層である。無構造でも密度は1.0ですこぶる疎、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒徑組成%				土性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭養率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.1		11.8	39.4	28.5	20.3	CL	73.8	2.74	6.15	0.50	12	10.6
2	20~30	4.1		14.1	40.3	21.9	23.2	CL	75.1	2.95	5.92	0.52	11	10.2
3	30~54	3.1		30.4	37.3	5.9	26.4	SC						

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	硫酸吸 収係数	有効態 有機酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	5.0	0.3	3.47	2.00	3.1	1.3	60.1	743	多
2	5.8	5.0	0.3	3.31	1.93	3.4	1.1	60.9	829	35.0
3	5.6	4.5	1.8	1.95	9.1	2.8	0.5	48.2	677	3.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、チエトイ統、フラウナイ統らがあるがチエトイ統とは母材、堆積様式が異なり、フラウナイ統とは腐植層序が異なるのでそれぞれ本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 緩傾斜

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され大豆、菜豆、ビート、馬鈴薯が主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

保全耕作、有機物施用、深耕

F 分布

北海道中川郡本別町、勇足

調査及び記載責任者 菊地 晃二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
勇足東一勇足東	pwase

ある。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.7で疎、pH (H₂O) 5.4、層果は判然。

第2層は厚さ2.0cm内外、土性はCLである。色は7.5YRで明度2、彩度2である。

と密度1.2で疎、pH (H₂O) 4.9、層界は判然である。

第3層は厚さ3.0cm内外、腐植欠く、土性はCLである。色は1.0YRで明度4、彩度3である。

礫なく、無構造、ち密度1.4で疎、pH (H₂O) 5.0、層界は漸変する。

第4層は厚さ1.6cm内外、腐植欠く、土性はCLである。色は1.0YRで明度4、彩度3である。

礫なく、無構造である。孔隙なし、ち密度1.4で疎、層界は判然である。

第5層は8.0cm以下で、腐植欠く、色は2.5GYで、明度5、採度1である。

礫なく、無構造ち密度は1.8で中である。

代表的断面形態

(所在地) 中田郡本別町勇足 試坑No. 144

第1層	0~1.5cm	腐植富む、黒褐(1.0YR2/3)のCL、礫なく、弱度の細粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.7で疎、pH (H ₂ O) 5.4、調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	1.5~3.6cm	腐植富む、黒褐(7.5YR2/2)のヨシを主体とする低立泥炭、ち密度1.2で疎、pH (H ₂ O) 4.9、調査時の湿り湿、層界判然。
第3層	3.6~6.4cm	腐植欠く、灰黄褐(1.0YR4/3)のCL、礫なく、無構造、ヨシあり、ち密度1.4で疎pH (H ₂ O) 5.0、調査時の湿り湿、層界漸変。
第4層	6.4~8.0cm	腐植欠く、灰黄褐(1.0YR4/3)のCL、礫なく、無構造、ち密度1.4で疎、pH (H ₂ O) 5.0、調査時の湿り湿、層界判然。
第5層	8.0~	腐植欠く、黄灰(2.5GY5/1)、礫なく、無構造、ち密度1.8で中、調査時の湿り湿。

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒徑組成%				土性	現地容積 g	全炭素 %	全窒素 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~1.5	6.3	0	4.2	39.5	38.9	17.4	CL		7.13	0.61	11
2	1.5~3.6	5.4	0	2.8	22.3	39.6	35.3	LiC		14.85	0.91	1.6
3	3.6~6.4	4.3	0	27.1	26.7	24.6	21.6	C				

層位	pH		置換酸度 y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.5	1.2	34.3	12.5	1.2	0.1	38.9	1.428	17.6
2	4.9	3.9							1.440	1.7
3	5.0	4.2		22.1	3.4	2.1	0.8	1.61	2.51	tr

A 土壤土の特徴

この土壤区は勇足中央統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土がやゝ抵抗がある。地下水位は高く過湿を呈する。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中で自然肥沃度は中庸である。石灰、燐酸多、苦土中、加里少、酸度中で養分は中である。一時的増冠水をうけるおそれがある。風融のおそれもある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

一部未墾地として残っている。耕地化されたところは大豆、ビート、馬鈴薯が主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

排水不良であるので明渠、暗渠排水することが先決である。また酸性を呈するので炭カルの施用が必要である。また表土は火山灰土で地力が減耗し易いから堆厩肥、塩基の補給も忘れてはならない。

D 分 布

北海道中川郡本別町、勇足、仙美里、上美里別

記載責任者 菊 地 晃 三 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

美 里 別 高 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10cm内外、腐植含量19.5%、土性はSiLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.6で疎、pH(H₂O) 5.6、層界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量14.8%、土性はHCである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の細塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O) 5.6、層界は判然である。

第3層は厚さ15cm内外、腐植含量8.2%、土性はLiCである。色は10YRで明度3、彩度3である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度2.1で中、pH(H₂O) 5.5、層界は漸変する。

第4層は厚さ15cm内外、腐植欠く、土性はLiCである。色は10YRで明度5、彩度4である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度2.1で中である。層界は不規則明瞭である。

第5層は50cm以下で母礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 中川郡本別町美里別 試攻No 84

第1層	0~10cm	腐植富む。黒褐(10YR2/2)のSiL、礫なく、弱度の粒状構造あり、隙なし、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り判乾、層界明瞭。
第2層	10~20cm	腐植富む。黒褐(10YR2/2)のHC、礫なく、発達弱度の細塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.1で中、pH(H ₂ O) 5.5(調査時の湿り湿)、層界漸変

第3層	20~35cm	腐植富む、黒褐(10YR3/3)のLiC、礫なく、弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.1で中、pH(H ₂ O) 5.5、調査時の湿り湿、層界漸変
第4層	35~50cm	腐植欠く、灰黄褐(10YR5/4)のLiC、礫なく、無構造、孔隙なし、ち密度2.1で中、調査時の湿り湿、層界不規則明瞭

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	全炭素 %	全窒素 %	腐植 %	
				粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~10	5.2	0	2.9	40.6	48.6	7.9	SiL		11.31	0.62	18	19.5
2	10~20	7.2	0	6.0	15.3	31.5	47.2	H C		8.58	0.44	19	14.8
3	20~35	4.9	0	8.4	25.4	33.1	33.1	LiC		4.76	0.21	22	8.2

層位	pH		置換酸度 y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.9	0.3	32.8	17.3	1.2	0.1	55.7	1.120	5.5
2	5.5	4.5	1.8	40.6	19.0	3.8	0.1	50.5	1.021	2.6
3	5.6	4.5	1.2	39.2	12.3	3.6	0.1	33.0	6.25	14.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては美里別統、拓農統らがあるが下層の礫層の有無、傾斜の程度などでそれぞれ本統と区分された。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風 積

B 地 形 傾 斜 地

C 気 候 年平均気温6.9℃、年降水量662.8mm

D 植生及び利用状況

耕地化されていないところもまだかなり残っている。耕地化されたところは大豆、えん麦、牧草らが主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、排水

F 分 布

北海道中川郡本別町美里別

調査及び記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
美里別高東—美里別高東	IIIeII dpwnias

(2) 土壤区別説明

美里別高東統一美里別高東区

示性分級式(如)

土壌	表土	表耕	表土	表土	表土	土	透	保	湿	自	保	固	土	置	有	微	酸	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	入	侵	耐	耐	
効	効	表	表	表	土	然	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	害	冠	す	斜	然	為	水	風			
産	土	土	土	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
能	厚	深	難	土	着	硬	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	
t	d	g	p				w					f																			
Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ
簡略分級式		Ⅲ・Ⅱ		d		p		w		f		u		i		a		a		o											

A 土壤区の特徴

この土壤区は美里別高東統に属する。表土の厚さは2.5cm以上で深い。有効土層は50cm内外でやや浅い。表土の土性は壤質であるが耕起、硬土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態良好で、自然肥沃度は良好である。石灰多、苦土、磷酸中、加里少で養分は中養である。傾斜を呈し、水蝕のおそれがある。風蝕のおそれもある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

耕地として残つてるところもまだある。耕地化されたところは主としてえん麦、牧草、デントロンらが飼料作物が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈するので、水蝕防止のために等高栽培や緑作帯の設置が必要である。また上からの伏流によるために堆肥、塩基の補給が大切である。

D 分 布

北海道中川郡本別町美里別

記載責任者 菊地 晃三(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

勇 足 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ30cm内外、腐植欠く、土性はsLである。色は10YRで明度4、彩度2である。礫なく、単粒状構造、ち密度1.9で中、pH(H₂O) 6.1、層界は判然である。

第2層は厚さ22cm内外，腐植含量2.1%，土性はCLである。色は10YRで明度3，彩度4である。礫なく，発達弱度の粒状構造あり，細孔，小孔あり，ち密度19で中，pH(H₂O)6.4，層界は判然である。

第3層は厚さ28cm内外，腐植欠く，土性はCLである。色は10YRで明度4，彩度2である。礫なく，発達弱度の塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度14で疎である。pH(H₂O)6.5，層界は明瞭である。

第4層は厚さ3cm内外の腐植を欠く，火山砂層である。色は10YRで，明度7，彩度2である。層界は明瞭である。

第5層は88cm以下で腐植欠く，土性はCLである。色は10YRで，明度4，彩度3である。礫なく発達中度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度15で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡本別町勇足 試坑No. 143

第1層	0~30cm	腐植欠く，黄褐灰(10YR4/2)のSL，礫なく，単粒状構造あり，孔隙なし，ち密度19で中，pH(H ₂ O)6.1，調査時の湿り乾，層界判然
第2層	30~52cm	腐植あり，暗褐(10YR3/4)のCL，礫なく，弱度の粒状構造あり，細，小孔あり，ち密度19で中，pH(H ₂ O)6.4，調査時湿りは半乾，層界判然
第3層	52~85cm	腐植欠く，暗黄灰(10YR4/2)のCL，礫なく，弱度の塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度14で疎，pH(H ₂ O)6.5，調査時の湿り半乾，層界明瞭
第4層	85~88cm	腐植欠く，淡黄褐灰(10YR7/2)の火山砂層である。調査時の湿り半乾，層界明瞭
第5層	88cm~	腐植欠く，灰黄褐(10YR4/3)のCL，礫なく，発達中度の粒状構造あり，細孔あり，ち密度15で疎，調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比 重	全炭素 %	全窒素	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~30	2.5				95	10.2	SL			0.70	0.06	10	1.2
2	30~52	4.0				28.3	18.6	CL			1.22	0.13	9	2.1
3	52~85	4.0				21.3	15.6	CL						

層位	pH		置換酸度 y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	4.0	0.30	16.3	10.0	2.1	1.2	63.0	523	2.5
2	6.4	5.2	0.30	17.8	17.4	4.3	0.7	101.9	33	29.6
3	6.5	5.2	0.30	24.8	17.4	3.9	0.6	73.2	911	18.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、勇足中央統があるが母材、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃, 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、菜豆、小豆、ビート、馬鈴薯等が作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物施用, 植質土壌の客入, 深耕

F 分布

北海道中川郡本別町勇足, 仙美里

調査及び記載責任者 菊地 晃 三 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
勇 足 一 勇 足	llfae

(2) 土壌区別説明

勇 足 統 - 勇 足 区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	(表)	(表)	(土透)	(保湿)	(自保)	(固土)	(養置)	(有微酸)	(障)	(災)	(傾)	(傾)	(侵)
壤効	表	表	透	保	固	土	置	有	微	酸	障	災	傾
生土	土	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理
産土	土	土	土	の	風	の	性	速	量	物	的	水	冠
力	の	の	の	乾	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加
可	の	の	の	粘	土	基	灰	土	里	酸	要	の	障
能	の	の	の	粘	土	基	灰	土	里	酸	要	の	障
性	厚	難	土	着	硬	沃	状	豊	含	"	"	"	"
等	深	含	性	性	性	度	力	力	速	量	素	度	無
級	さ	量	易	湿	度	度	度	度	度	度	度	度	度
	t	d	e	p	w	f	n	i	a	s	e		
[ll]	1	1	1	1	1	1	2	2	1	ll	2	1	1
簡略分級式	llfae												

A 土壌区の特徴

この土壌区は勇足統に属する。表土の厚さは2.5cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、砕土は容易である。地下水位は低く、過干のおそれが多少ある。保肥力中、固定力

小、土層の塩基状態良好で自然肥沃度は良好である。

石灰、苦土、加里多、磷酸中、弱度弱で養分は多い、一時に増冠水の危険性が多少ある。特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、主としてビート、馬鈴薯、菜豆、小豆らが作付けられている。

C 地方保全上の問題点

土性が粗く、保肥力、保水がやゝ小さいからそのために埴土系土壌の客入が望ましい。また、腐植含量も少ないので有機物の導入も忘れてはならない。

D 分 布

北海道中川郡本別町勇足、仙美里

記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

チ エ ト イ 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ30cm内外、腐植欠く、土性はLSである。色は10YRで明度4、彩度3である。

なお、単粒状構造、孔隙なし、ち密度1.4で疎、pH(H₂O)5.7、層界は判然である。

第2層は厚さ15cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は10YRで明度3、彩度4である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で中、pH(H₂O)6.0、層界は判然である。

第3層は4.5cm以下、腐植欠く、土性はSLである。色は10YRで明度6、彩度3である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)6.4。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 中川郡本別勇足 試坑No.196

第1層	0~30cm	腐植欠く、灰黄褐(10YR4/3)のLS、単粒状構造、孔隙なし、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)5.7 調査時の湿り乾、層界判然
第2層	30~45cm	腐植欠く、暗褐(10YR9/4)のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O)6.0 調査時の湿り乾、層界判然
第3層	45cm~	腐植欠く、灰黄褐(10YR6/3)のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)6.4 調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒徑組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全窒素 %	全炭素 %	炭素比	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~30	10.5		50.2	39.2	4.3	6.3	Ls			0.52	0.04	11	0.9
2	30~45	2.0		18.4	54.6	16.2	10.3	Ss			0.87	0.04	11	1.5
3	45~	2.6		2.3	69.8	19.1	8.8	Ss						

層位	pH		置換酸度 y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和 %	磷酸吸 収係数	有効磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.3	2.5	12.5	7.4	2.7	0.4	65.8	24.6	50.0
2	6.0	4.8	0.3	20.0	13.8	1.5	0.4	70.2	52.0	29.0
3	6.4	4.9	0.3	21.2	16.0	2.0	0.2	77.7	65.2	20.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては勇足東統，勇足統，美里別統等があるが，勇足東統，美里別統とは母材，堆積様式が異なり，勇足統とは心土の土性が異なるので本統と区分した。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形 平地

C 気候 年平均気温 6.9°C，年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され，ビート，馬鈴薯，小豆，菜豆らが作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物施用，粘土系土壌の各入

F 分布

北海道中川郡本別町，勇足，チヨイト，袖美里

調査及び記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
FユトイーFユトイ	II (w) Fa0

② 土壤区別説明

チエトイ統一チエトイ区

示 性 分 級 式 (細)

土	表	有	表	耕	土	白	養	障	災	傾	侵	耐
壤	効	土	表	表	透	保	置	有	有	堆	自	耐
生	土	土	土	土	然	固	換	微	物	地	傾	耐
産	土	土	土	土	然	土	〃	酸	理	す	人	耐
力	の	の	の	の	水	定	〃	量	的	水	為	水
可	の	の	の	の	水	塩	〃	〃	害	り	然	風
能	の	の	の	の	潤	基	〃	〃	質	の	の	蝕
性	厚	難	粘	土	沃	灰	〃	〃	の	障	傾	蝕
等	深	着	土	硬	沃	土	〃	〃	有	害	傾	蝕
級	さ	量	性	性	性	力	糖	素	無	性	度	性
級	さ	易	性	性	性	力	糖	素	無	性	度	性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	o	
[I]	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
[II]	I	I	I	I	(II)	I	I	I	I	I	I	I
簡	略	分	級	式								
					II	(w)	f	n	e			

A 土壤区の特徴

この土壤区はチエトイ統に属する。表土の厚さは2.5cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、砕土は容易である。地下水水位が低く過干のおそれがある。保肥力中、固定力小土層の塩基状態良好で自然肥沃度は良好である。石灰、苦土、加里、燐酸多、弱度弱で養分は多い。一時的増冠をうける危険性はある。特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化されている。ビート、馬鈴薯、菜豆、小豆らが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

土性が粗く保肥力、保水力がやや小さいから植土系土壤の客入が望ましい。また、腐植を欠くので有機物の導入も必要である。

D 分 布

北海道中川郡本別町、勇足、チエトイ、仙美里
 記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭 和 4 3 年 3 月 3 1 日

勇 足 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ2.4cm内外、腐植含量3.3%、土性はOLである。色は1.0YRで明度4、彩度3である。礫なく、発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.0ですこぶる疎、pH(H₂O)6.4、層界は判然である。

第2層は厚さ2.3cm内外、腐植含量2.2%、土性はLiCである。色は1.0YRで明度3、彩度4である。礫なく、発達中～強度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)1.5層界は判然である。

第3層は4.5cm以下、腐植欠く、土性はSである。色は1.0YRで明度6、彩度3である。礫なく、単粒状構造、孔隙なし、ち密度1.0ですこぶる疎である。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡本別町勇足 試坑No 193

第1層	0~24cm	腐植あり, 灰黄褐 (10YR4/3) のCL, 礫なく, 発達強度の細粒状構造あり, 細孔あり, ち密度1.0ですこぶる疎, pH (H ₂ O) 6.4 調査時の湿り乾, 層界判然
第2層	24~45cm	腐植あり, 暗褐 (10YR3/4) のLiC, 礫なく, 発達中~強度の粒状構造あり, 細, 小孔あり, ち密度1.5で疎, pH (H ₂ O) 6.5 調査時の湿り半乾, 層界判然
第3層	45cm~	腐植なし, 灰黄褐 (10YR6/3) のS, 礫なく, 単粒状構造あり, 孔隙なし, ち密度1.0ですこぶる疎 調査時の湿り半乾

代表的断面分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土性	塊容 積重 g	容積率	全容率 %	全容率 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0-24	3.7	0	2.1	36.1	40.4	21.4	CL			1.91	0.20	9	3.3
2	24-45	4.5	0	4.1	28.7	41.6	25.6	LO			1.28	0.16	7	2.2

層位	pH		置換酸度 y ₁	塩基置換容 量 mg/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効遊離酸
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.4	0	26.7	20.2	3.4	0.8	78.7	806	多
2	6.5	5.3	0.3	30.2	24.1	4.6	0.4	83.5	981	160

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては勇足中央統, フラシナイ統とがあるが, 母材, 堆積様式が異なるので本統と区分した。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地 形 平坦

C 気 候 年平均気温 6.9℃, 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され, ビート, 馬鈴薯, 菜豆, 小豆らが作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物施用, 深耕

F 分 布

北海道中川郡本別町勇足

調査及び記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
勇足西一勇足西	llpa

(2) 土壤区別説明

勇足西統 - 勇足西区

示性分級式(畑)

土壌	表土	表耕	表土	表土	土	透保	湿	自保	固土	養置	有微	酸	障	有物	災	増地	傾	自傾	入	侵	耐	
効	土	土	土	土	然	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
生	上	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
産	上	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
力	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
可	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
能	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
厚	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
性	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
等	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
級	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
さ	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
量	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
易	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
性	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
湿	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
度	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
力	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
量	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
素	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
度	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
無	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
性	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
度	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
度	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
斜	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
向	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
斜	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
度	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
性	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
性	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
級	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
式	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
簡	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
略	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
分	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
級	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
式	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
II	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為
pa	の	の	の	の		水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	斜	為

A 土壤区の特徴

この土壤区は勇足西統に属する。表土の厚さは2.5cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はよく抵抗がある。地下水位は低く、過湿、過干のおそれは少ない。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態良で自然肥沃度は良好である。石灰、苦土、加里、磷酸多、酸度弱で養分は多い。一時的増冠水をうける危険性が多少ある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、ビート、馬鈴薯、菜豆、小豆らが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

適湿なる埴壤土の沖積土壌で大なる問題はないが、よりいつそう地力増強するために堆肥、緑肥を投入しつつ漸次深耕して作土層を深めるべきだろう。

D 分布

北海道中川郡本別町勇足

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

本 別 沢 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.0cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は2.5YRで明度5、彩度4である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度8ですこぶる疎である。pH(H₂O) 6.3、層は判然である。

第2層は厚さ1.0cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は2.5Yで明度4である。小、中、大の円礫、角礫あり、孔隙なし、ち密度1.5で疎、pH(H₂O) 6.3、層は不規則である。

第3層は厚さ3.0cm内外、腐植欠く、土性はSLである。色は2.5Yで明度4、彩度4である。小、中、大の円、角礫あり、孔隙なし、ち密度1.4で疎、層外は不規則である。

第4層は5.0cm以下で大、中、小の角、円礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 中川郡本別町本別沢 試坑No 114

第1層	0~10cm	腐植欠く、黄褐 (2.5Y5/4) のSL, 礫なく、弱度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度8ですこぶる疎、pH (H ₂ O) 6.3, 調査時の湿り乾、層界判然
第2層	10~20cm	腐植欠く、暗黄褐 (2.5Y4/4) のSL, 中、小の円、角礫あり、孔隙なし、ち密度1.5で疎、pH (H ₂ O) 6.3, 調査時の湿り乾、層界不規則、明瞭
第3層	20~50cm	腐植欠く、SL, 中、小の角、円礫含む、孔隙なし、ち密度1.4で疎、調査時の湿り半乾、層界不規則、明瞭
第4層	50cm~	大、中、小の円、角礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				主性	塊礫 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~10	26	0	15.7	64.1	12.4	10.8	SL			0.58	0.07	7	1.0
2	10~20	2.5	5	17.3	63.2	4.8	14.7	SL						

層位	pH		置換酸度 y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効遊離燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.1	0.3	17.3	11.0	3.3	1.1	65.4	9.50	26.7
2	6.3	5.3	0.3	17.3	11.0	3.2	1.1	65.3	9.64	20.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては美蘭別統、負統らがあるが母材、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母 材 非固結水成岩

B 地 形 平坦

C 気 候 年平均気温 6.9℃, 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

まだ未墾地として残されているところもある。耕地化されているところは馬鈴薯、菜豆、ビートらが作付けられている。

E 農業上の留意事項

除礫、河川改修、有機物施用、保全耕作

F 分 布

北海道中川郡本別町本別沢、押帯沢、美蘭別沢

調査及び記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
本別沢-本別沢	llc l d g p (w) f i

嫌 侶 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量32.8%、土性はO₁である。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達劣度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.2で疎、pH(H₂O) 5.4、層界は明瞭である。

第2層は厚さ2cm内外、腐植を欠き、2.5Yで明度6、彩度2の火山灰層である。板状構造を呈す。

第3層は厚さ14cm内外、腐植含量8.0%、土性はL₁Cである。色は10YRで明度4、彩度1である。礫なく、発達劣度の粒状構造であり、細孔あり、ち密度1.8で中、pH(H₂O) 4.8、層界判断なし、ち密度1.8で中、pH(H₂O) 4.6、層界は判断である。

第4層は厚さ6cm内外、腐植あり、色は10YRで明度3、彩度1である。礫なく、板状構造、孔隙なし、ち密度1.8で中、pH(H₂O) 4.6、層界は判断である。

第5層は厚さ7cm内外、腐植欠く、色は10YRで明度6、彩度3である。礫なく、板状構造、孔隙なし、ち密度1.8で中、pH(H₂O) 4.6、層界は明瞭である。

第6層は厚さ10cm内外、腐植含量45.6%、ヨシを主体とする分解の進んだ低位泥炭土である。色は10YRで明度1、彩度1である。孔隙なし、ち密度1.5で疎、pH(H₂O) 5.6、層界は判断である。

第7層は5.5cm以下で未分解なヨシ、ハンの木を主体とする低位泥炭土である。色は10YRで明度2、彩度2である。孔隙なし、ち密度は1.4で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 中川郡本別町嫌侶

試坑No.128

第1層	0 ~ 20cm	腐植すこぶる富む、黒褐(10YR 2/2)のO ₁ 、礫なく、発達劣度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O) 5.4、調査時の湿り湿、層界明瞭
第2層	20 ~ 22cm	腐植欠く、黄褐灰(2.5Y 6/2)のO ₁ 、礫なく、板状構造、孔隙なし、調査時の湿りは湿、層界明瞭
第3層	22 ~ 36cm	腐植含む、黒褐(10YR 1/1)のL ₁ C、礫なく、発達劣度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O) 4.8、調査時の湿り湿、層界判断
第4層	36 ~ 42cm	腐植含む、黒褐(10YR 5/1)、礫なく、板状構造、孔隙なし、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O) 4.6、調査時の湿り湿、層界判断
第5層	42 ~ 45cm	腐植欠く、灰黄褐(10YR 6/3)、礫なく、板状構造、孔隙なし、ち密度1.8で中、pH(H ₂ O) 4.6、調査時の湿り湿、層界判断
第6層	45 ~ 55cm	分解の進んだヨシを主体とした低位泥炭土である。黒色(10YR 1/1)を呈す。pH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り湿、層界判断
第7層	55cm ~	未分解のヨシを主体とする低位泥炭土である。黒褐(10YR 2/2)を呈す。調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫重量 %	粒径組成 %				土性	現地積 容量 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 22	5.0	0	2.9	41.9	34.2	21.0	Cl	69.7		14.62	1.21	12	32.8
2	22 ~ 36	8.9	0	0.1	19.0	42.9	38.0	LiC	45.8	2.57	4.76	0.56	8	8.2
3	36 ~ 45	7.8	0	1.2	31.0	46.1	21.7	SicL			—	—	—	—
4	45 ~ 55	10.0	0	0.1	17.3	42.5	40.1	LiC			17.98	0.99	18	45.6

層位	pH		置換 酸度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰飽 和度 %	磷 酸吸 収係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KcL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.8	0.6	31.0	12.9	2.3	0.1	43.8	99.6	32.9
2	4.8	3.9		42.5	13.9	5.6	0.4	24.4	196.0	4.0
3	4.6			62.4	5.0	0.9	0.1	12.7	163.2	6.1
4	5.6	4.1		101.7	35.5	4.4	0.2	38.8	245.0	3.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては嫌侶統、勇足中央統らがあるが下層の母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 662.8mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され大豆、馬鈴薯、えん麦らが作付けられている。

E 農業上の留意事項

排水、酸性矯正、有機物施用

F 分布

北海道中川郡本別町嫌侶

調査及び記載責任者 菊地 晃二 (北海道立中央農試)

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
嫌侶中央-嫌侶中央	IIIwfaIIPne

② 土壌区別説明

嫌侶中央統 - 嫌侶中央区

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
美 蘭 別	美 蘭 別 美 里 別 高 東	518	火山灰土壌 傾 斜 地	保全耕作 緑作帯の設置 堆厩肥, 緑肥の導入 磷酸肥料の多施用 塩基の補給
美 里 別	美里別 勇足東 負簾西 嫌 侶 清 里 活込西 本 別 拓農西 フラウナイ, 川東	2,197	火山灰土壌 適 湿 平 坦	防風林の完備 堆厩肥, 緑肥の導入 磷酸肥の多施用 塩基の補給 深 耕
押 帯	活 込 達 下 美 利 別 押 勇 足 中 帯 美 利 別 央 西 拓 農	2,718	火山灰土壌 排水不良地 平坦~傾斜地 下 層 軟 酸 性	明渠, 暗渠排水 磷酸肥料の多施用 酸度矯正 塩基の補給 深 耕 防風林の完備
仙 美 里	仙 美 里 月 見 台	1,826	火山灰土壌 排水不良地 平坦~傾斜地 下 層 密	明渠, 暗渠排水 心土破砕 磷酸肥料の補給 塩基の補給 防風林の完備 深 耕
勇 足 西	勇 足 西	144	沖積土(埴土系) 乾 燥 地	深 耕 堆厩肥の多施用
チ エ ト イ	勇 足 西 チ エ ト イ	900	沖積土(砂土系) 乾 燥 地	堆厩肥の多施用 塩基の補給 灌漑設備の設置 埴質土の客土
本 別 沢	本 別 沢	447	沖積土(土層が 不均一)	河川改修 保全耕作
嫌 侶 中 央	嫌 侶 中 央	50	泥炭質土 排水不良 酸 性	明渠, 暗渠排水 酸性矯正 優良粘土の客入

2) 保全対策地区説明

(負簾保全対策地区)

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	畑 面 積 (ha)	備 考 (該 当 土 壤 区)
中川郡本別町	1,010	下 押 帯 負 簾 上 美 里 別

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は火山灰土壌の平坦な乾燥地で風蝕の被害の大きい事である。従つて風蝕の防止に努めることと、堆厩肥と緑肥を導入することによつて地力の増進を図ることが大切である。磷酸吸収力が強いから磷酸の増産、また地力がやせやすいので塩基の補給にも注意が必要である。

(3) 地力保全対策

対 策 の 種 類	対 象 地 及 び 対 象 の 面 積	実 施 方 法	対 策 の 資 材 及 び 機 械 器 具 の 種 類 , 型 式 , 数 量
風 蝕 防 止 有 機 物 補 給 磷 酸 資 材 投 入 塩 基 の 補 給 心 土 耕	1,010 ha	防 風 林 牧 草 導 入 堆 厩 肥 施 用 , 緑 肥 導 入 石 灰 , 苦 土	防 風 林 完 備 牧 草 種 子 の 補 給 家 畜 の 増 加

(美 蘭 別 保 全 対 策 地 区)

(1) 分 布 状 況

郡 市 町 村 名	畑 面 積 (ha)	備 考 (該 当 土 壤 区)
中川郡本別町	518	美 蘭 別 美 里 別 高 東

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は火山灰土壌の傾斜地で風蝕、水蝕の被害の大きい事である。従つて風蝕防止の方法として防風林の他に緑作帯の設置や保全耕作を行つたり、堆厩肥、緑肥を導入することによつて地力の増進を図ることが大切である。磷酸吸収力が強いから磷酸の増産、養分の保持力が弱いから塩基の補助も大切である。

3) 地力保全対策

対 策 の 種 類	対 象 地 及 び 対 象 の 面 積	実 施 方 法	対 策 資 材 及 び 機 械 器 具 の 種 類 , 型 式 , 数 量
風 蝕 防 止 水 蝕 防 止 有 機 物 補 給	518 ha	防 風 林 , 牧 草 導 入 緑 作 帯 の 設 置 堆 厩 肥 施 用	防 風 林 の 完 備 牧 草 種 子 の 補 助 家 畜 の 増 加

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
磷酸資材投入 塩基の補給		緑肥導入 石灰、苦土	

〔美里別保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
中川郡本別町	2,197	美里別 勇足東 負 麓 西 嫌 侶 清 里 活 込 西 木 別 拓 農 西 フラウナイ 川 東

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は適湿の火山土壌である。主要農耕地となり、大なる問題はみられないが、火山性土で地力減退し易い傾向がみられるので塩基の補給、堆厩肥の施用、磷酸肥料の多施等も不可決である。防風林の完備や、一部過湿のところもあるので、そのおそれのあるところは排水を実施するとよい。

3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
磷酸の多施用 有機物施用 塩基の補給 風蝕防止 深耕	2,197 ha	堆厩肥施用、緑肥導入 石灰、苦土	種子補助 家畜の増加 防風林の完備

〔押帯保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
中川郡本別町	2,718	活 込 拓 農 押 帯 下美里別 美里別西 勇足中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策の特徴は土壌が過湿で排水不良なことである。従つて排水の完備が先決問題である。次に火山灰性土で地力が減退し易いから、塩基の補給、堆肥の施用が大切である。この他、燐酸の多施用、酸性矯正、防風林の完備も大切であろう。

3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水 酸度矯正 燐酸肥料の多施用 塩基の補給 防風林の完備	2,718 ha	明渠, 暗渠排水 炭カル施用	工事費の補助 土管補助 炭カル(200Kg/10a)

(仙美里保全対策地区)

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
中川郡本別町	1,826	仙美里 月見台

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は下層土が堅密で排水不良となつてゐることである。従つて排水を実施し、次に心土破碎を併用することが先決問題である。火山灰土で地力が減退し易い傾向があるから塩基の補給、堆肥の施用が必要と思われまふ。この他、燐酸の多施用、酸性矯正、防風林完備も次に不可欠にならう。

3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水 心土破碎 塩基の補給 燐酸肥料の多肥 酸性矯正 防風林の完備	1,826	明渠, 暗渠排水 パレフレーカーの使用 石灰, 苦土	工事費の補助 土管補助 炭カル施用(100~200Kg/10a)

(勇足西保全対策地区)

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
中川郡本別町	144	勇 足 西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区は本町に於いて最も肥沃な土壌であり大なる問題点はない。ただ腐植含量が少ないから有機物の補給が大切である。下層土の地力も高いので積極的に深耕を行なうべきである。

3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有機物施用 深耕	144	堆厩肥の施用	

[チェトイ保全対策地区]

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
中川郡本別町	900	勇 足 チェトイ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は表層土が砂質、下層土が細小礫と砂の互層からなり、過干を呈する。また腐植含量もきわめて少ないことである。従つて有機物を多施用し、埴質土の客入によつて保肥力、保水力を高めるべきである。そ菜地帯などでは灌漑設備らの必要もあろう。

3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有機物施用 客土 灌漑	900	軌道客土 灌漑設備	埴質土の客入 工事費の補給

[本別沢保全対策地区]

(1) 分布状況

郡区町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
中川郡本別町	447	本 別 沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は河川の流域に分布する沖積土で土層の状態が乱雑で有効土層の浅い場合が多い。地表から巨大礫が散在し、農耕上支障を来すこともある。又一部過湿のおそれのあるところもある。

3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有機物の施用 除礫一部客土 河川改修 保全耕作	447		工事費の補助 種子の補助

〔 嫌 侶 保 全 対 策 地 区 〕

(1) 分 布 状 況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
中川郡本別町	50	嫌 侶 中 央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

泥炭土壌である。最表層に火山灰層が存在し、耕地として利用する場合はこの火山灰と泥炭の一部が混入している。泥炭の分解は不良で、排水がわるく酸性を呈する。磷酸、加里含量少ない。

3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水 酸性矯正 磷酸加里の補給 客土	50	幹線大明渠排水 機械力による炭カルの投入 磷酸の施用、加里の施用 優良粘土の客入	工事費の補助 炭カル(300~500Kg/10a) 磷酸(40~50Kg/10a)

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学										
					礫 (風 乾 物 中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に 100CC	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 CC
負 帯	下 押 帯	172	1	0~15		5.9	9.7	4.2	50.7	54.9	3.75	7.6	L	788	321
			2	15~24		10.7	8.2	6.7	50.0	56.7	3.19	11.4	L	68.9	12.6
			3	24~42		8.7		10.8	58.6	6.94	2.52	5.4	SL		
			4	42~		8.2		9.2	36.0	4.52	2.84	2.64	LiC		
	負 籠	136	1	0~22		4.5	9.2	4.9	5.54	6.03	3.05	9.2	L		
			2	22~30		7.9	5.4	6.4	6.21	6.85	2.62	5.3	SL		
			3	30~45		8.6		6.6	6.54	7.20	2.38	4.3	SL		
			4	45~		7.9		6.6	6.29	6.95	2.51	5.4	SL		
籠	上 美 里 別	55	1	0~15		4.6	7.9	2.86	3.40	6.26	2.73	10.1	L	105.9	5.39
			2	15~20		2.1	3.1	6.15	2.36	8.51	5.6	9.3	LS		
			3	20~30		1.8	1.4	5.36	3.56	8.92	9.4	1.4	S		
			4	30~33		2.4	1.9	2.97	5.37	8.34	1.57	0.9	SL		
			5	33~58		0.6		5.11	4.63	9.74	2.6	0	S		
美 蘭 別	美 蘭 別	179	1	0~10		4.1	8.1	3.7	5.03	5.40	3.29	1.31	L	9.04	2.18
			2	10~20		5.2	3.3	5.7	4.50	5.07	3.61	1.32	L	8.68	3.22
			3	20~50		4.4		7.5	4.67	5.42	2.93	1.65	CL		
	美 里 別 高 東	84	1	0~10		5.2	1.95	2.9	4.06		4.86	7.9	SiL		
			2	10~20		7.2	1.48	6.0	1.53		3.15	4.72	HC		
			3	20~35		4.9	8.2	8.4	2.54		3.31	3.31	LiC		
美 里 別	美 里 別	91	1	0~20		4.7	10.4	4.3	4.69	5.12	3.71	11.7	L	10.20	1.91
			2	20~26		9.5	9.8	2.9	4.20	4.49	3.63	1.88	CL	9.10	4.42
			3	26~46		7.9	6.3	5.5	4.46	5.01	4.17	8.2	L		
			4	46~56		8.2	7.9	8.7	5.07	5.94	3.37	6.9	L		
			5	56~		5.7		8.6	3.20	4.06	4.08	1.86	CL		

性			化 学 性												
おける理化学性 容 中			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 mg/100g	置換性塩基 ^{mg} /100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数 mg/100g	有 効 焦 磷 酸 mg/100g
水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
			529	150	679	6.55	5.55	0.50	7.53	0.474	1.59	342	50.21	2.20	3.41
564	31.0	87.4	6.05	5.2	0.30	5.33	0.418	1.67	397	30.67	1.78	31.7	31.0	25.27	1.3
			6.45	5.55	0.50				126	12.45	6.4	7.2	38.7	21.71	1.8
			5.95	4.55	1.88				181	11.80	5.45	15.4	25.4	13.60	3.9
			6.35	5.45	0	5.59	0.440	1.29	247	49.95	2.42	2.27	75.5	11.73	12.1
			5.90	5.15	0.50	3.40	0.315	1.07	209	23.08	1.35	5.6	42.9	22.53	1.7
			6.05	5.25	0.50				19.5	1.620	1.74	6.2	32.4	22.28	1.3
			6.25	5.55	0.50				9.9	1.250	2.21	7.7	49.0	20.19	1.3
311	150	461	5.95	4.75	0.60	4.80	0.420	1.14	20.5	23.04	1.50	1.83	42.0	1.203	14.7
			6.05	4.75	0.60	1.84	0.167	11.6	11.1	10.98	2.98	4.3	36.2	9.15	3.7
			6.15	4.75	0.60	0.82	0.081	10.1	7.8	7.01	2.13	6.2	16.5	10.40	5.7
			5.85	4.65	0.94	1.13	0.091	13.7	10.3	9.01	1.07	8.2	32.1	9.37	4.9
			6.15	4.85	0.50				3.3	3.24	1.78	7.1	35.1	3.58	tr
488	29.4	78.2	5.85	4.85	0.50	4.90	0.323	1.52	21.4	8.0	1.62	3.75	37.5	1.174	8.3
528	150	67.8	5.95	4.65	1.25	2.02	0.161	1.25	20.1	19.76	2.65	2.04	37.1	1.559	1.7
			5.95	4.75	0.94				1.69	18.77	5.78	1.48	41.5	1.198	2.5
			5.6	4.9	0.5	11.31	0.62	1.8	32.8	1.73	1.2	0.1	55.7	1.120	5.5
			5.5	4.5	1.8	8.58	0.44	1.9	40.6	1.90	3.8	0.1	50.5	1.021	2.6
			5.6	4.5	1.2	4.76	0.21	2.2	39.2	1.23	3.6	0.1	33.0	6.25	14.7
324	48.5	80.9	6.15	5.05	0.50	6.33	0.462	1.37	30.2	50.73	1.67	1.53	62.9	12.21	16.4
376	182	55.8	6.05	5.05	0.50	6.28	0.418	1.50	30.7	46.94	2.40	3.7	60.3	1.775	6.2
			5.80	4.65	0.94	3.96	0.414	1.10	29.6	26.12	3.43	4.6	32.9	20.19	1.7
			5.85	4.65	0.94	4.99	0.365	1.37	35.0	29.79	3.59	11.3	33.1	21.71	tr
			5.95	4.55	0.60				20.1	26.06	7.46	31.5	49.1	12.41	2.1

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学										現地に 100CC	
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土性	容積重 g	固相容積 CC	
						水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %	粘土 %				
美里別	負籠西	140	1	0~20		6.1	14.8	3.9	45.4	49.3	29.9	2.08	CL	76.7	34.9	
			2	20~25		5.3	7.0	3.5	52.8	56.3	37.5	6.2	L	54.6	22.2	
			3	25~35		8.9	18.8	14.4	28.5	42.9	25.3	31.8	LiC	64.3	16.9	
			4	35~55		7.2	8.4	14.8	54.0	68.8	22.8	8.4	SL			
			5	55~		3.6		19.2	48.9	68.1	17.2	14.7	SL			
	清里	14	1	0~20		4.4	11.1	5.7	45.6	51.3	37.4	11.3	L	81.5	38.2	
			2	20~41		3.4	5.2	23.9	51.7	75.6	22.6	1.8	SL	75.5	35.4	
			3	41~58		3.1		30.0	54.7	84.7	12.9	2.4	SL			
	本別	121	1	0~15		4.5	11.0	2.5	41.7	44.2	44.1	11.7	L	71.3	24.7	
			2	15~37		4.3	10.2	1.8	37.5	39.3	49.1	11.6	SiL	75.1	28.3	
3			37~57		7.5	6.4	5.6	61.5	67.1	25.4	7.5	SL				
4			57~		7.8	5.6	8.3	60.4	68.7	28.7	2.6	SL				
フラツナイ	149	1	0~30		3.8	5.4	3.4	37.1	40.5	31.8	2.77	LiC				
		2	30~50		5.9	5.7	2.8	17.6	20.4	43.7	35.9	LiC				
		3	50~78		4.8	2.8	20.0	18.2	38.2	31.6	30.2	LiC				
		4	78~		3.9		13.8	46.9	60.7	19.9	19.4	SCL				
勇足東	148	1	0~20		4.1	10.6	11.8	39.4	51.2	28.5	2.03	CL	73.8	26.9		
		2	20~30		4.1	10.2	14.1	40.8	54.9	21.9	23.2	CL	75.1	25.5		
		3	30~54		3.1		30.4	37.3	67.7	5.9	26.4	SC				
嫌侶	194	1	0~18		9.1	10.7	10.4	42.4	52.8	32.8	14.4	L	84.9	33.1		
		2	18~24		4.2	9.7	12.9	39.1	52.0	33.4	14.6	L	85.1	33.8		
		3	24~34		3.2		11.2	53.0	64.2	33.5	2.3	L				
		4	34~46		6.8	6.2	11.7	54.4	66.1	25.7	8.2	SL				
		5	46~58		5.5	2.6	20.4	46.6	67.0	26.7	6.3	SL				

性			化 学 性												
おける理化学性 容 申			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 mg/100g	置換性塩基 ^{mg} /100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	空 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
526	125	65.1	5.75	4.95	0.30	9.14	0.626	14.6	38.0	554.7	27.2	9.5	55.5	1,659	6.4
468	31.0	77.8	5.80	4.8	0.30	4.29	0.355	13.6	22.8	159.4	16.4	22.4	26.4	1,592	1.7
485	34.6	83.1	5.55	4.25	5.00	11.97	0.712	16.7	62.0	397.8	41.5	4.1	25.1	1,269	1.3
			5.55	4.45	2.81	5.25	0.417	12.6	36.4	193.8	24.9	5.6	53.3	2,140	1.7
			5.75	4.65	1.88			13.5	135.6	34.4	14.7	37.3	960	1.7	
335	28.3	61.8	6.05	5.15	0.30	6.74	0.416	16.2	29.6	524.0	34.7	12.3	66.2	1,274	13.4
304	34.2	64.6	5.45	4.45	2.50	3.13	0.221	14.2	19.0	126.9	24.1	7.3	24.7	1,519	1.7
			5.75	4.65	0.94			10.6	88.4	22.8	3.4	30.7	1,350	1.2	
405	34.8	75.3	6.15	5.15	0.30	6.68	0.524	12.8	29.8	527.1	23.4	17.3	66.1	1,145	9.6
451	26.6	71.7	6.25	5.35	0.30	6.19	0.454	13.6	30.2	615.1	22.3	3.9	75.9	1,195	5.4
			6.35	5.25	0.30	4.01	0.375	10.7	28.5	388.3	38.5	5.1	52.6	1,971	3.5
			6.35	5.25	0.30	3.53	0.343	10.3	27.8	336.6	34.7	9.2	47.0	2,207	1.7
			5.90	4.85	0.30	3.26	0.326	11.9	26.3	236.8	19.4	22.1	33.4	146	31.2
			5.95	4.85	0.30	3.52	0.409	10.2	26.6	328.9	79.1	18.0	47.0	1,068	5.5
			6.05	4.75	0.30	1.70	0.180	9.5	28.9	447.5	135.1	20.8	58.1	972	2.9
			6.15	4.75	0.30				20.8	293.5	135.6	18.6	52.4	250	5.4
326	40.5	73.1	5.85	5.05	0.30	6.41	0.531	12.1	34.7	559.6	62.7	60.9	60.1	743	
348	39.7	74.5	5.85	5.0	0.30	6.17	0.551	11.2	33.1	540.8	69.2	53.6	60.9	829	35.0
			5.60	4.55	1.88			19.5	254.9	55.6	25.3	48.2	677	3.3	
464	20.5	66.9	6.35	5.25	0.30	6.83	0.425	16.1	29.0	489.7	26.3	19.7	66.5	1,202	19.0
474	18.8	66.2	6.25	5.25	0.30	5.88	0.381	15.4	28.6	447.3	29.0	7.4	58.3	1,250	5.0
			6.15	5.45	0			7.2	66.2	21.2	2.9	34.0	1,069	2.5	
			5.85	4.85	0.60	3.86	0.262	14.8	25.6	235.2	47.7	7.1	35.2	1,976	1.3
			5.95	4.75	1.88	1.60	0.167	9.6	19.2	158.2	47.2	18.4	31.1	1,640	1.3

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学										現地に 100CC	
					礫 (風乾物中) %	風乾細上中		細 土 無 機 物 中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 CC	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %				
美 里 別	活 込 西	48	1	0~18		5.1	10.7	8.1	42.2	50.3	75.2	14.5	L	96.7	48.8	
			2	18~28		8.6	7.0	15.9	53.8	69.7	27.0	3.3	SL	87.8	44.4	
			3	28~63		6.2		19.1	57.1	76.2	22.6	1.2	SL			
	拓 農 西	33	1	0~20		6.2	12.0	10.5	30.7	41.2	35.3	23.5	CL	74.5	36.2	
			2	20~33			3.3	23.0	21.7	44.7	29.0	26.3	LiC	103.6	44.7	
			3	33~53		4.0		22.6	23.4	46.0	34.6	19.4	CL			
川 東	201	1	0~18		3.9	11.1	11.2	35.2	46.4	27.9	25.7	LiC	87.4	25.5		
		2	18~35		4.3	11.4	4.2	46.6	50.8	35.0	14.2	L	85.7	34.8		
		3	35~50		4.9	15.0	6.4	37.1	43.5	34.4	22.1	CL				
		4	50~		5.6	9.5	4.3	40.9	45.2	43.1	11.7	L				
押 帯	活 込	47	1	0~17		6.5	15.6	6.0	42.9	48.9	37.6	13.5	L	61.8	31.4	
			2	17~28		7.8	16.7	9.1	46.2	55.3	17.2	27.5	SC	80.6	46.2	
			3	28~48		6.0	6.1	21.0	42.2	63.2	31.1	5.7	L			
			4	48~73		3.5		28.6	43.0	71.6	26.5	1.9	SL			
	押 帯	157	1	0~20		6.4	16.7	4.3	42.5	46.8	33.6	19.6	CL	60.3	26.8	
			2	20~35		10.3	17.2	4.1	33.2	37.3	39.5	23.2	CL	54.5	24.7	
			3	35~48		10.9	10.5	8.1	53.2	61.3	29.7	9.0	L			
			4	48~		9.9		7.6	51.8	59.4	37.5	3.1	L			
美 里 別 西	42	1	0~18		5.3	11.8	7.5	36.9	44.4	33.2	22.4	CL	81.2	41.6		
		2	18~38		5.4	8.9	7.4	45.7	53.1	34.4	12.5	L	93.6	50.8		
		3	38~45		3.9	1.8	9.4	57.3	66.7	27.5	5.8	SL				
		4	45~80		2.5		14.8	50.6	65.4	27.2	7.4	SL				

性			化 学 性													
における理学性 容 中			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 mg/100g	置換性塩基 ^{mg} /100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g	
水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	空 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		C ₂ O	MgO	K ₂ O				
			%	%	%	%	%	%	%	%	%					
33.4	17.8	51.2	5.75	4.65	0.94	6.55	0.484	13.5	25.8	25.26	22.9	5.0	36.9	1,451	3.8	
37.6	18.0	55.6	6.05	4.85	0.60	4.44	0.346	12.9	12.1	13.78	30.8	5.7	44.5	2309	1.8	
			6.20	5.05	0.30					16.4	6.72	34.7	6.5	15.6	1,934	1.3
27.8	36.0	63.8	5.95	4.95	0.30	7.42	0.698	10.8	3.90	590.7	45.0	20.1	57.6	1,406	11.9	
24.6	30.7	55.3	5.85	4.85	0.30	1.91	0.211	9.0	21.7	266.3	59.3	12.3	43.8	1,146	2.8	
			6.15	4.85	0.30					17.9	241.3	76.9	14.7	50.2	789	3.8
44.1	30.4	75.5	5.85	4.85	0.30	6.70	0.535	12.5	35.1	490.2	6.3	13.9	51.9	1,214	32.9	
43.4	21.8	65.2	5.75	4.85	0.30	6.91	0.550	12.6	35.4	552.3	44.6	15.3	58.2	1,229	31.0	
			5.85	4.95	0.30	9.15	0.589	15.5	38.8	613.0	19.7	11.2	59.4	1,391	15.6	
			5.55	4.75	0.30	5.84	0.417	14.0	29.4	306.1	12.8	26.8	39.3	735	3.8	
30.6	38.0	68.6	5.85	4.85	0.30	9.67	0.677	14.3	36.7	428.9	38.8	19.3	42.9	1,468	12.4	
34.3	19.5	53.8	5.65	4.55	1.88	10.51	0.730	14.4	43.4	331.5	35.1	9.7	29.6	1,958	5.6	
			5.65	4.35	5.65	3.77				26.7	84.3	39.1	8.0	12.0	1,974	1.3
			5.95	4.35	4.06					12.2	72.2	48.7	6.3	21.8	1,003	2.9
62.7	10.5	73.2	5.90	4.75	0.94	10.35	0.741	14.0	38.0	425.5	23.4	11.1	42.7	1,467	13.2	
54.3	21.0	75.3	5.85	4.65	0.60	1.13	0.859	13.0	48.9	277.6	15.5	8.9	22.6	2,552	1.8	
			5.85	5.0	0.30	6.83	0.540	12.6	35.7	241.9	22.6	4.8	27.1	2,579	1.3	
			6.15	4.75	0.60					24.2	215.7	61.6	13.1	35.3	1,940	
29.6	28.8	58.4	5.55	4.55	1.56	7.22	0.563	12.8	33.9	300.4	28.2	26.9	33.4	1,265	8.9	
35.4	13.8	49.2	5.85	4.6	0.94	5.45	0.458	11.9	29.0	237.4	32.7	24.9	30.9	1,642	9.3	
			6.05	4.55	0.94	1.08				17.9	159.7	37.5	38.7	33.3	1,270	2.5
			6.45	4.95	0.30					11.3	142.8	57.5	29.5	46.4	624	2.5

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学										現地に 100cc	
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	容積重 g	固相容積 cc	
						水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %	粘土 %				
押	農	36	1	0~15		5.3	12.3	5.8	41.9	47.7	37.2	15.1	CL	104.0	49.2	
			2	15~27		4.8	7.4	10.3	39.3	49.6	42.2	8.2	L	100.3	50.9	
			3	27~32		6.0	3.4	11.9	55.2	67.1	26.1	6.8	SL			
			4	32~46		3.0		10.6	57.7	68.3	25.6	6.1	SL			
帯	下美里別	101	1	0~22		5.3	11.4	3.4	39.3	42.7	40.6	16.7	CL	76.2	33.3	
			2	22~27		8.4	21.6	0.8	26.1	26.9	35.3	37.8	LiC	68.3	30.0	
			3	27~37		3.6	4.3	4.3	45.0	49.3	26.0	24.7	CL			
			4	37~53		3.5		11.8	42.1	53.9	27.7	18.4	CL			
帯	勇足中央	144	1	0~15		6.3	12.3	3.8	44.0	47.8	32.8	19.4	CL			
			2	15~36		5.4	25.6	2.8	22.3	25.1	39.6	35.3	LiC			
			3	36~64		4.3		27.1	26.7	53.8	24.6	21.6	CL			
美 里	仙美里	90	1	0~13		4.5	8.6	6.9	42.9	49.8	33.3	16.9	CL			
			2	13~22		7.9	11.3	2.6	24.0	26.6	33.7	39.7	LiC			
			3	22~32		3.6	1.5	25.3	39.1	64.4	18.1	17.5	SCL			
			4	32~45		2.3		28.7	36.5	65.2	24.7	10.1	SL			
里	月見台	24	1	0~15		5.6	16.5	7.2	34.6	41.8	44.4	13.8	L			
			2	15~31		11.1	35.2	0.2	15.2	15.4	50.8	33.8	SiC			
			3	31~38		7.4		2.6	16.4	19.0	27.3	53.7	HC			
			4	38~50		6.2	2.6	2.3	21.8	24.1	42.3	33.6	LiC			
勇足西	勇足西	193	1	0~24		3.7	3.3	2.1	36.1	38.2	40.4	21.4	CL			
			2	24~45		4.5	2.2	4.1	28.7	32.8	41.6	25.6	LiC			

性			化 学 性												
おける理学性 容 中			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 mg/100g	置換性塩基 ^{mg/100g}			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
			32.2	18.6	50.8	5.85	4.95	0.30	7.53	0.614	12.3	34.1	466.3	27.6	11.9
36.7	12.4	49.1	5.45	4.45	2.50	4.50	0.440	10.2	27.6	224.0	3.6	7.4	30.5	1,640	10.1
			5.50	4.35	3.75	2.09			22.4	202.4	12.4	7.5	34.3	1,492	2.1
			5.75	4.35	2.50				14.0	175.8	58.6	7.8	46.4	79.4	2.9
55.4	13.3	66.7	5.95	4.95	0.30	6.98	0.538	13.0	26.2	566.4	31.8	13.4	52.7	1,257	6.8
59.8	10.2	70.0	5.45	4.55	1.88	13.68	1.000	13.7	50.0	525.3	61.0	15.9	41.0	2,116	2.2
			5.80	4.65	1.25	2.58	0.202	12.8	18.3	161.7	62.3	13.2	32.8	1,182	2.5
			5.65	4.45	1.56				17.1	184.5	78.5	27.3	40.0	387	1.7
			5.45	4.55	1.25	7.61	0.651	11.7	34.3	349.6	24.7	6.1	38.9	1,428	17.6
			4.95	3.95	9.38	15.70	0.962	16.3						1,440	1.7
			5.0	4.25	11.88				22.1	95.1	41.2	35.4	16.1	251	tr
			5.75	4.85	0.30	5.23	0.450	11.6	24.2	329.2	39.6	22.2	51.0	1,109	25.6
			5.25	4.35	2.81	7.11	0.694	10.3	37.6	326.6	55.9	15.4	33.7	1,853	3.0
			5.55	4.35	1.88	0.90	0.122	7.9	11.5	120.8	31.7	7.3	39.0	740	8.7
			6.05	4.65	0.60				9.8	112.4	65.7	8.2	42.0	57.4	3.3
			6.55	5.55	0.	10.13	0.725	14.2	37.0	789.7	46.2	25.9	80.7	1,383	6.4
			5.55	4.45	2.50	22.97	1.428	16.1	72.4	457.4	83.7	43.5	25.4	2,666	4.1
			5.35	4.05	10.63				40.5	183.6	50.1	28.0	17.5	1,784	3.9
			5.55	3.85	14.38	1.61			22.3	131.3	66.2	13.1	22.4	1,030	1.7
			6.45	5.45	0.	1.98	0.216	9.2	26.7	565.3	68.6	39.1	78.7	806	
			6.55	5.35	0.30	1.34	0.174	7.7	30.2	673.7	92.8	20.2	83.5	981	16.0

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学										現地に 100cc	
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土性	容積重 g	固相容積 cc	
						水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	ミルト %	粘土 %				
チエトイ	勇足	143	1	0~30		2.5	1.2	6.6	73.7	80.3	9.5	10.2	SL			
			2	30~52		4.0	2.1	0.8	52.3	53.1	28.3	18.6	CL			
			3	52~85		4.0		0.1	53.0	53.1	31.3	15.6	CL			
チエトイ	チエトイ	196	1	0~30		10.5	9	48.0	44.7	92.7	2.7	4.6	LS			
			2	30~45		2.0	1.5	9.3	65.5	74.8	17.6	7.6	SL			
			3	45~		2.6		2.3	69.8	72.1	19.1	8.8	SL			
本別沢	本別沢	114	1	6~10		2.6	1.4	15.7	61.1	76.8	12.4	10.8	SL			
			2	10~20		2.5		17.3	63.2	80.5	4.8	14.7	SL			
嫌侶中央	嫌侶中央	128	1	0~22		5.0	32.8	2.9	41.9	44.8	34.2	21.0	CL	69.7	22.9	
			2	22~36		8.9	8.2	0.1	19.0	19.1	42.9	38.0	LiC	45.8	17.8	
			3	36~45		7.8	45.6	1.2	31.0	32.2	46.1	21.7	SiCL			
			4	45~55		10.0	45.6	0.1	17.3	17.4	42.5	40.1	LiC			

性			化 学 性												
おける理学性 容 中			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			置 換 容 量 塩 基 mg/100g	置換性塩基 ^{mg/100g}			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC	空 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
						6.15	4.95	0.30	0.72	0.066	10.9	16.3	299.7	42.5	58.5
			6.45	5.25	0.30	1.27	0.136	9.4	17.8	487.5	85.7	30.4	101.9	33	29.6
			6.55	5.2	0.30				24.8	487.0	77.5	26.0	73.2	911	18.8
			5.75	4.35	2.50	0.58	0.051	11.3	12.5	206.4	53.3	20.1	65.8	246	50.0
			6.05	4.85	0.30	0.89	0.081	11.0	20.0	385.6	29.7	19.1	70.2	520	29.0
			6.45	4.95	0.30				21.2	448.0	40.5	10.4	77.7	652	20.1
			6.35	5.15	0.30	0.83	0.089	9.3	17.3	308.8	65.9	50.3	65.4	950	26.7
			6.35	5.35	0.30				17.2	307.1	63.9	52.2	65.3	964	20.1
50.4	26.7	77.1	5.40	4.85	0.60	15.39	1.282	12.0	31.0	360.3	46.6	4.5	43.8	996	32.9
61.9	20.3	82.2	4.80	3.95	15.0	5.23	0.616	8.5	62.5	388.0	112.8	19.7	24.4	1,960	4.0
			4.65	4.15	11.25				42.4	138.8	17.9	2.6	12.7	1,632	6.1
			5.6	4.15	3.13	19.98	1.110	18.0	101.7	994.2	87.5	9.9	38.8	2,450	3.1